4

極秘

必勝戰策

519

群馬県立図書館
中島文庫

13152

注 意 事 項

○資料は大切に扱いましょう。
○資料は転貸借はお断りします。
○15日間の期限に必ず返して下さい。
○資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話（0272）㉛3008番

必勝戰策

目次

序言……一頁
第一、日本ノ國防態勢……三
一、生産戰ニ因ル國防ノ危機……四
二、大型飛行機出現ニ依ル國防ノ危機……一一
三、歐洲戰局ヨリ波及スル國防ノ危機……二五
第二、皇國保全ノ方(妥)策……三一
一、日、獨、ソ三國提携策……三一
二、日、獨、米、英四國提携策……三三
三、生産增强敢鬪策……三五

第三、必勝戰策ニ關スル新構想……三九頁
一、防衛戰策……四〇
二、米國擊滅戰策……四七
三、獨逸必勝戰策……五〇
第四、必勝戰策遂行ニ必要ナル兵器ノ構想……五二
一、必勝兵器ノ具備スベキ基礎條件……五二
二、五千馬力六發三萬馬力超大型飛行機……五五
三、乙飛行機ノ製産資材節約上ノ優越性……五九
第五、乙飛行機ヲ以テスル必勝三戰策實施案……六七
一、防衛戰……六七
二、米國擊滅戰……七六
三、獨逸必勝戰……八一
第六、乙飛行機製産計畫……八三
一、最短期限ト最少機數……八四
二、設計製産ニ對スル非常施策……八五
三、製産施設ノ急速整備……八七
四、乙飛行機、發動機製産實行計畫……八八
(イ) 乙飛行機製産計畫……八八
(ロ) 乙發動機製産計畫……九〇
五、獨逸トノ協力作業……九〇
結語……九六

序言

今次ノ大東亜戰爭ハ、初メ、日本ハ飛行機戰策ヲ基調トシ、米、英ハ大艦巨砲戰策ヲ基調トセル對戰デアツテ、僅小ナル生産力ヲ以テ厖大ナル生産力ニ對抗シ、克ク之ヲ撃破シ得ル戰勢ニアリマシタカラ、戰ヘバ必ズ勝ツト云フ確信ヲ持チ得タノデアリマス。

果シテ、開戰スルヤ忽チニシテ、敵ノ海上勢力ヲ撃碎シ、赫々タル戰果ヲ擧ゲ、廣汎ナル戰略要域ヲ獲保シタノデアリマス。

斯クテ、一應前進ヲ停止シ、防衛態勢ニ轉位スルヤ、米、英ハ敗戰ニ鑑ミ、昨年六月、遂ニ彼等ノ傳統トスル大艦巨砲戰策ヲ放擲シ、飛行機戰策ニ轉換スルニ至ツタノデアリマス。

茲ニ於テ、戰爭ノ容相ハ全ク一変シ、將來ニ於ケル勝敗ノ鍵ハ、飛行機ノ質ト量トニ存スルコトヽナリ、事態ハ極メテ重大化スルニ至リ、現狀ノ儘推

移スルニ於テハ、國家ノ前途ハ誠ニ憂慮ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス。

故ニ、現戰勢ヲ打開シ、必勝態勢ヲ確立スルタメニハ、現行戰策ヲ轉換スベキ飛躍的新構想ノ必要ヲ痛感スルノデアリマス。

ソコデ、研究ノ結果、二、三ノ新構想ヲ得マシタノデ御參考ノ資ニ供スル次第デアリマス。

昭和十八年八月八日

―識―

必勝戰策

第一、日本ノ國防態勢

先ヅ順序トシテ日本ノ國防態勢ニ就テ申シ上ゲマス。

今次ノ戰爭ニ於テ、日本ハ北ハアリユーシヤン、カラ、西ハビルマ、南ハ蘭印諸島、ヒリツピン、ウエーク島ニ至ル戰略要域ヲ獲保シ、今ヤ日本ハ、絶對不敗ノ國防態勢ガ確立シタト、政府ハ屢々聲明セラレ、國民モ亦然ク確信シテ居ルノデアリマス。然シ乍ラ、世界情勢ノ推移ヨリ之ヲ大觀スルニ、現國防態勢ヲ以テシテハ、決シテ樂觀ヲ許サザルバカリデナク、寧ロ、將來危險ナル情勢サヘモ豫見セラレルノデアリマス。

ソノ危險ナル理由ハ多々アリマスガ、重大ナルモノヲ擧グレバ次ノ三ツヲ數ヘルコトガ出來ルノデアリマス。

一、生産戰ニ因ル國防ノ危機

二、大型飛行機出現ニ因ル國防ノ危機

三、歐州戰局ヨリ波及スル國防ノ危機

之ノ三ツノ理由ニ就キ遂次具体的ニ解説致シマス。

一、生産戰ニ因ル國防ノ危機

今ヤ、國ヲ擧ゲテ、戰爭ハ生産戰デアル、生産決戰デアルト叫バレテ居リマスガ、第一線ニ於ケル戰力ハ、國内ノ生産力ガ其ノ根源ヲナスモノデアリマスカラ、從來ノ戰策ヲ蹈襲スル限リニ於テハ、正ニ戰爭ハ生産力ノ戰爭デアルト謂ヒ得ルノデアリマス。

ガタルカナル、チユニジヤ、スターリングランド等ノ戰績ハ、軍需品ノ補給ニ或ル程度以上ノ差ガ生ジタル場合ニハ、如何ニ大和魂、獨逸魂ヲ以テシテモ如何トモスルコトハ出來ナイ、又、如何ニ高度ニ訓練セラレタル精兵ヲ以テシテモ如何トモナシ難イコトヲ、如實ニ證明シテ餘リアルノデアリマス。

而シテ、一國ノ軍需生産力ハ、軍需生産ノ根源ヲナス製鐵能力ニ比例スルト共ニ、工作機械ノ製産能力ニ比例スルモノデアルコトハ申シ上ゲル迄モナイコトデアリマス。

ソコデ、之等ニ對スル日本ト米國トノ比率ハ現在ドウデアルカト云ヘバ、製鐵能力ニ於テ約一對二十デアリ、工作機械製産能力ハ約一對五十程ニナツテ居ルト思ハレマス、此ノ比率ハ、實ニ日、米兩國ノ戰力ノ比率ヲ現ハスモノデアツテ、極メテ重大ナル意義ヲ有スルノデアリマス。少クトモ指導ノ任ニアタル者ハ、此ノ事實ニ對シ、極メテ冷靜ニ、透徹シタル觀察ト、思考トヲ拂フ必要ガアルト思フノデアリマス。

今ヤ、國ヲ擧ゲテ一億敢鬪生産增強ノ示標ニ遵ニ無ニ邁進シテ居ル、此ノ重大事態ニ直面シテ、生産增強ハ最モ重要ナル對策デアルコトハ勿論デアル、然ラバソレデ宜シイノデアルカ、茲ガ重大問題デアリマス。

如何ニ生産増強ニ敢闘シテモ、四圍ノ容觀情勢カラ歸納シ、茲一、二年ノ間ニ於テ、日本ノ生産力ガ、米國ニ拮抗シ得ルニ至ルコトハ思ヒモヨラザル所デアル、輸送力其ノ他ノ關係ヨリ、生産絶對量ノ差ハ、寧ロ更ニ擴大スルノ憂サヘアルノデアリマス。

故ニ、他ニ劃期的打開策ヲ講ゼズ、只單ニ生産増強ノミニ依ツテ勝敗ヲ決セントスルナラバ、勝敗ノ歸決ハ既ニ明瞭デアツテ、日本ノ運命ハ極メテ憂慮スベキモノデアルト断ゼザルヲ得ナイノデアリマス。

之ヲ第一線防衛ノ現實ニ就テ熟視スレバ、更ニ明確ニ意識スルコトガ出來ルト思フノデアリマス。

日本ハ、今次戰爭ニテ獲得シタル戰略要域ヲ外郭線トシテ防衛態勢ヲ採ツテ居ルノデアリマスガ、米國ハ此ノ外郭線ニ對シ先ヅソロモン、ニ反攻ノ火蓋ヲ切リ、戰闘ハ日ニ日ニ熾烈ヲ極メ、容易ナラザル容相ヲ呈シテ居ルノデ

アリマス、其ノ結果、一機デモ早ク、多ク、ソロモン、ヘ、ソロモン、ヘト悲痛ノ聲ガ叫バレテ居リマス、ソロモンハドコマデモ守ラナケレバナラナイコトハ勿論デアル、然シ乍ラ、一切ヲソロモン、ニ結集シテ、此處サヘ守リ通セバ日本ノ國防ハ安全ヲ期シ得ルカト云フト、断ジテソウハ參ラヌコトヲ銘記シナケレバナラナイ。

若シ、ソロモン、ダケガ日、米ヲ通ズル隘路デアツテ、他カラ來ル道ハナイト云フナラバ、此處サヘ守ツテ居レバ安全デアルガ、天空ハ無縫ニシテ、飛行機ノ攻擊ニハ道ハナイ、何處カラデモ來ラレルノデアリマス。

現ニ、敵ハ千島方面ニ頻ニ偵察ニ爆擊ニ遣ツテ來ル、若シ此ノ方面ニ飛行機ノ備ヘガ手薄トナラバ、直チニ占領セラレテ敵ノ航空基地トナリ、國防ノ危機ハ極メテ重大化スルコトハ申ス迄モナイコトデアル、從ツテ、此ノ方面ニモ優秀機ト軍需品ノ配備ヲ欠クコトハ出來ナイ。

又、敵ハ日本本土空襲ヲ大規模ニ準備中デアッテ、何時來ルカ判ラナイ、故ニ本土ニハ廣ク優秀ナル飛行機ヲ配備シテ置カナケレバナラナイ。

又、支那本土ニ於テハ、盛ニ米國流ノ大規模ヲ以テ多數ノ飛行場ヲ建設中デアッテ、之ガ整備ヲ了レバ一夜ニシテ多數ノ飛行機ヲ結集シ、日本攻撃ノ擧ニ出ズベキコトハ明カデアリマス。之ニ對シテモ優秀ニシテ有カナル空軍ヲ配シテ置カナケレバナラナイ。

又、米、英ハ、大規模ノビルマ反攻ヲ企圖シ、現ニ印度ニ大量ノ兵力、器材ヲ集結中デアッテ完了次第大規模ノ攻撃ニ出テ來ルコトハ緊迫シタル事實デアリマス、之ノ方面ノ反攻ハ必然、ビルマ、泰、馬來ニ及ブ廣大ナル戰面トナリ、日本トシテハ未曾有ノ大消耗戰ヲ展開スルニ至ルコトハ瞭カデアッテ、全生産能力ヲ擧ゲテ尚ホ足ラザル情勢サヘ想像セラレルノデアリマス。

又、スマトラ、ジヤバ等ハ、石油ノ源泉地デアッテ、之ヲ爆破セラレルカ

失フ時ハ、日本ハ重大ナル運命ニ逢着スル、米英ノ眞ノ狙ヒハ必ズヤ之ノ邊ニアルト思ハレルノデアリマス、從ッテ此ノ方面コソ、最モ有カナル空軍ヲ配シ、防備ノ完璧ヲ期サナケレバナラナイ。

又、委任統治領ノ何千カノ南洋ノ諸島ハ、ドレヲ取ラレテモ直チニ米國ノ航空基地トナリ、本土防衛ノ危險ヲ來スコトヽナル、從ッテ之等多數諸島ノ防備ノタメニ相當數ノ飛行機ヲ配備シナケレバナラナイ。

又、ソ滿國境ニ對シテハ、互ニ多數ノ精兵ヲ配シテ對峙シテ居ルノデアッテ、一寸ノ遲緩モ重大ナル結果ヲ引キ起ス憂ガアリマスカラ之ノ方面ニモ優秀機ヲ集結シテ置カナケレバナラナイコトハ言ヲ要セザル所デアリマス。

斯クノ如ク日本ハ廣袤三萬粁ニ亘ル外郭防衛線ノ全線ニ汎ネク飛行機、軍需品ヲ備ヘナケレバナラナイ、而シテ、米、英ハ厖大ナル生産力ヨリ來ル戰力ヲ任意ノ點ニ集結シテ、大擧攻勢ヲ採リ得ル態勢ニアルノデアリマス、斯

カル防衛態勢ニアツテハ、假リニ日本ガ米國ノ十倍ノ軍需生産力ガアツタトシテモ、數理上國防ノ完璧ヲ期シ得ナイコトハ瞭カデアリマス、然ルニ實情ハ之ト正反對デアツテ、日本ノ生産力ハ前述ノ通リ劣勢デアル、今假リニ、日本ノ飛行機製産能力ヲ、急速ニ増强シ、二、三倍ニ達シタトシテモ、之ヲ廣袤三萬粁ノ戰線ニ配備シタノデハ胡麻塩同然タルコトハ免レナイ。

從ツテ、ソロモン、ヤ ビルマ戰線ニ航空勢力ヲ結集シ、彼我勢力ノ均衡ニ努ムレバ、勢ヒ他ノ戰線ハ極メテ希薄トナリ、防衛ガ困難トナルコトハ避ケラレナイ、又總テノ戰線ニ配備シテ廣ク防備セントスレバ、ソロモン戰線、ビルマ戰線ハ劣勢トナリ、苦戰トナルコトハ當然ノ歸決デアル。

是實ニ、現代戰ニ於ケル守勢態勢ニ内在スル避ケ難キ宿命的欠陥デアル。

茲ニ於テ、敢然トシテ飛躍的戰策轉換ヲ策セズ、只單ニ、生産力増强ノミニ依ツテ、勝敗ヲ決セントスル舊式戰法ヲ漫然継續スル限リニ於テハ、現國防態勢ハ決シテ樂觀ヲ許サヾルバカリデナク、極メテ危險ナル態勢デアルト斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス。

二、大型飛行機ニ因ル國防ノ危機

古來戰策ハ兵器ノ進歩変遷ニ從ツテ変革スルモノデアルコトハ、不変ノ鐵則デアリマス、從ツテ、兵器ノ進歩如何ニヨツテハ、戰策ハ根本ヨリ変革ヲ來タシ、爲ニ現在絶對不敗ノ國防態勢ト雖モ根底カラ覆ヘリ、危險ノ態勢トナルコトガアルノデアリマス。

近時、飛行機ノ進歩ノ趨勢ハ、大馬力、大型機ニ向ツテ急速ナル進展ヲナシツヽアリマスガ、特ニ米國ニ於テ此傾向ガ著シイノデアリマス・從ツテ、米國ニ於ケル大型機ノ進歩ノ如何ニ依ツテハ、直接日本本土爆擊ガ可能トナリ、日本ノ國防態勢ノ基底ニ動搖ヲ來スノ恐ガアルノデアリマス。

米國ニ於ケル航空勢力ハ、ルーズベルト大統領ガ、本年ハ飛行機ノ年産額

ヲ十二萬五千台ニ引揚ゲルト揚言シテ居リマスカラ、大体其ノ輪郭ヲ察知スルコトガ出來ルノデアリマス、其ノ内、直接日本本土ヲ爆撃シ得ルモノハ、所謂空ノ要塞ト、航空母艦用艦載機デアリマシテ、現在及ビ將來ノ推移ハ大体第一表ニ示ス如ク推定セラレルノデアリマス。

ルーズベルトハ昭和十六年ニ空ノ要塞ノ必要性ヲ強調シ、年産額五千台ニ引キ揚ゲルコトヲ指令シ、民間飛行機工場増設ノタメニ政府資金ヲ放出シタノデアリマス、當時空ノ要塞ハボーイングB十七型ガ標準型デアツテ、割合ニ小型デアリマシテ、三萬人程度ノ單位工場ヲ以テスレバ、一年ニ一千台以上製産可能デアリマスカラ、此ノ年ニハ五ツノ單位工場ニ相當スル工場ヲ建設シタト思ハレマス、其ノ後大東亜戰爭ガ勃發スルヤ、ルーズベルトハ十七年ノ一月ニ、空ノ要塞ヲ年産一萬二千台ニ引キ揚ゲルコトヲ指令致シマシテ、更ニ工場建設ノタメニ政府資金ヲ放出シタノデアリマス、一萬二千台ト云ヘ

第一表

米國ノ日本本土攻撃航空勢力

一、米國空ノ要塞

年次	四發空ノ要塞	六發空ノ要塞	日本本土攻撃	記事
年号	B一七型	B二九型	日本攻撃用	

第一表

米國ノ日本本土攻撃航空勢力

一、米國空ノ要塞

年次	年号	四發空ノ要塞 B一七型 工場新設	完成工場	製産數	B二九型 工場新設	完成工場	製産數	六發空ノ要塞 日本攻撃用 工場新設	完成工場	製産數	日本本土攻撃機數	記事
	一六	四	一	一、〇〇〇	〇	〇		〇	〇		〇	(4)印ハ四発
	一七	〇	五	三、〇〇〇	七		設計試作	〇			〇	B二九
一	一八	〇	〇	三、〇〇〇	〇	一二	製産	一〇	一〇	製産	(4)二、〇〇〇	
二	一九	〇	〇	〇	〇	一二	六、〇〇〇	一〇	一〇	三、〇〇〇	(4)三、〇〇〇 二、〇〇〇	
三	二〇	〇	〇	〇	〇	一二	七、二〇〇	一〇	二〇	三、〇〇〇	(4)三、〇〇〇 二、〇〇〇	
四	二一	〇	〇	〇	〇	一二	七、二〇〇	一〇	三〇	七、〇〇〇	(4)七、〇〇〇 二、〇〇〇	
五	二二	〇	〇	〇	〇	一二	七、二〇〇	一〇	四〇	一一、〇〇〇	(4)一一、〇〇〇 二、〇〇〇	

二、米國航空母艦及母艦用飛行機

年次	年号	航空母艦勢力 建造數	沈没數	残存數	飛行機勢力 戦闘機	爆撃機	合計	日本攻撃可能飛行機	記事
一	一八	一〇〇	一〇	九〇	三、六〇〇	五四〇〇	九、〇〇〇	四、五〇〇	日本攻撃可能ノ勢力ハ總勢力ノ二分ノ一ト推定ス
二	一九	一五〇	五〇	一九〇	七、六〇〇	一二、四〇〇	一九、〇〇〇	八、五〇〇	
三	二〇	一五〇	七〇	二七〇	一〇、八〇〇	一六、二〇〇	二七、〇〇〇	一三、五〇〇	
四	二一	一五〇	二一〇	二一〇	八、四〇〇	一二、六〇〇	二一、〇〇〇	一〇、五〇〇	
五	二二	一五〇	三〇〇	六〇	二四〇〇	三、六〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	

ベ十二ノ單位工場ヲ必要トスル譯デアリマスカラ、更ニ七ツノ單位工場ニ相當スル工場ノ建設ニ掛ツタモノト推定セラレマス、所デ、ボーイングB十七型ハ千二百馬力發動機四個ヲ裝備シ總馬力僅カニ四千八百馬力デアリマシテ、性能モ決シテ充分トハ申セナイ、ソコデ、十七年ノ始メニ米國デハ、二千馬力ノ發動機ガ完成シ、現在デハ、二千馬力四發裝備ノボーイングB二十九型ノ設計試作ガ完成致シマシタカラ、之等ノ新工場ハ目下B二十九型ノ製産中デアリ、明年即チ十九年ニハ此ノB二十九型ガ相當活躍スルデアラウト思ハレマス。

ソレカラ、米國ハ昨年六月、飛行機戰策ニ轉換シ日本反攻ヲ企圖スルニ至ルヤ、本年一月、ルーズベルト、ハ日本本土攻擊可能ノ大型爆擊機ヲ出來ルダケ無制限ニ多ク作レト云フ指令ヲ發シ、大型飛行機工場建設ノタメニ莫大ナル政府資金ヲ放出シタト謂ハレテ居ルノデアリマス、諸般ノ情報ヲ綜合ス

ルニ、本年一月、機体工場ダケデモ少クトモ十ケ所以上建設ニ着手シタト思ハレマス、又大型爆撃機ノ型式ハ、二千馬力乃至二千五百力發動機ヲ六個裝備シタル六發空ノ要塞デアルコトガ推定セラレルノデアリマス、之ノ六發爆撃機ハ、遅クモ今年内ニハ設計試作ヲ終リ、來年ニハ多量製産ニ着手出來マスカラ、昭和二十年中期迄ニハ相當數整備シ、二十年後期ニハ活躍期ニ入ルモノト思ハレマス、其ノ數ハ大体第一表ニ示ス數字ニ近イモノデアルト推定セラレルノデアリマス。

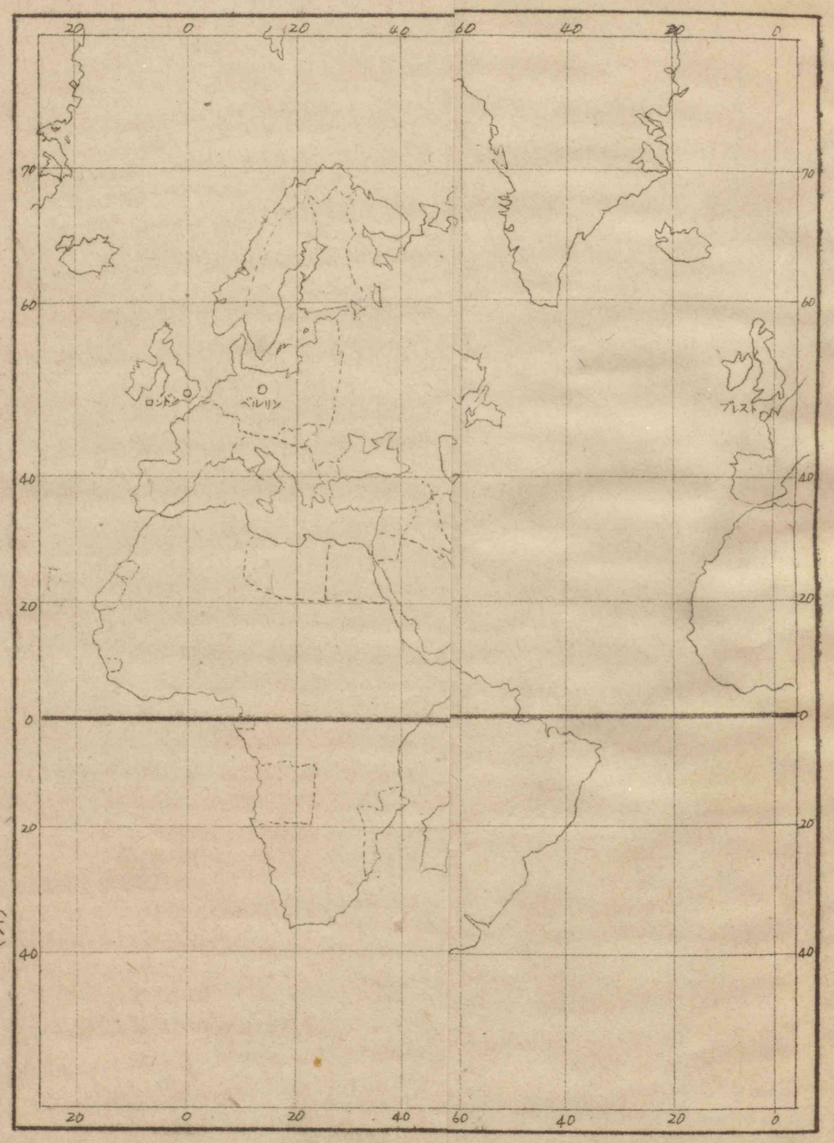
次ハ航空母艦及ビ艦載機デアリマスガ、制式航空母艦ノ建造計畫ハ屢々發表セラレ公知ノ事實デアリマス、此ノ外ニ、米國ノコトデアリマスカラ、商船ヲ改裝シタル特設航空母艦ヲ相當數建造スルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、ソレ等ノ總數ハ第一表ノ數字ニ示ス位ニ推定スルコトガ安全デアラウト考ヘラレマス。

所デ、之等ノ飛行機ガ日本ニ對シ、如何ニ攻防戰ヲ展開シテ來ルカヲ圖ニ現ヘセバ、第一圖、第二圖ノ如クニナリマス。

第一圖ハ昭和十八年、即チ本年ニ於ケル航空攻防戰ノ狀勢ヲ現ハシタモノデアリマス。日本ノ飛行機ハ現在双發爆撃機ガ最大デアリマシテ、攻撃半径ハ、一千八百粁デアリマスカラ、各基地ヨリ防衛圏ヲ畫ケバ赤線ノ如クナリマス。

米國ノ空ノ要塞ハ現有ノモノハ、ボーイングB十七型ガ標準型デアリマシテ、馬力ハ一千二百馬力四發、總馬力四千八百馬力、航續距離ハ、五千四、五百粁、速力ハ、五百粁、爆弾積載量ハ、二瓲デアリマスカラ、攻撃半径ハ大体二千七百粁以下デアルト見ラレルノデアリマス、二千七百粁ヲ半径トシテ攻撃圏ヲ畫キマスト青線ノ如クニナリマス。

從ッテ、本年ハ空ノ要塞ノ危險ハ殆ド有リマセン、只B二十九型ガ少數本



年末迄ニ出來タモノヲ以テ、ヤツテ來ル場合ニハ被害ハアリマスガ、數ガ少イカラ、大シタコトハナカラウト思ハレマス。

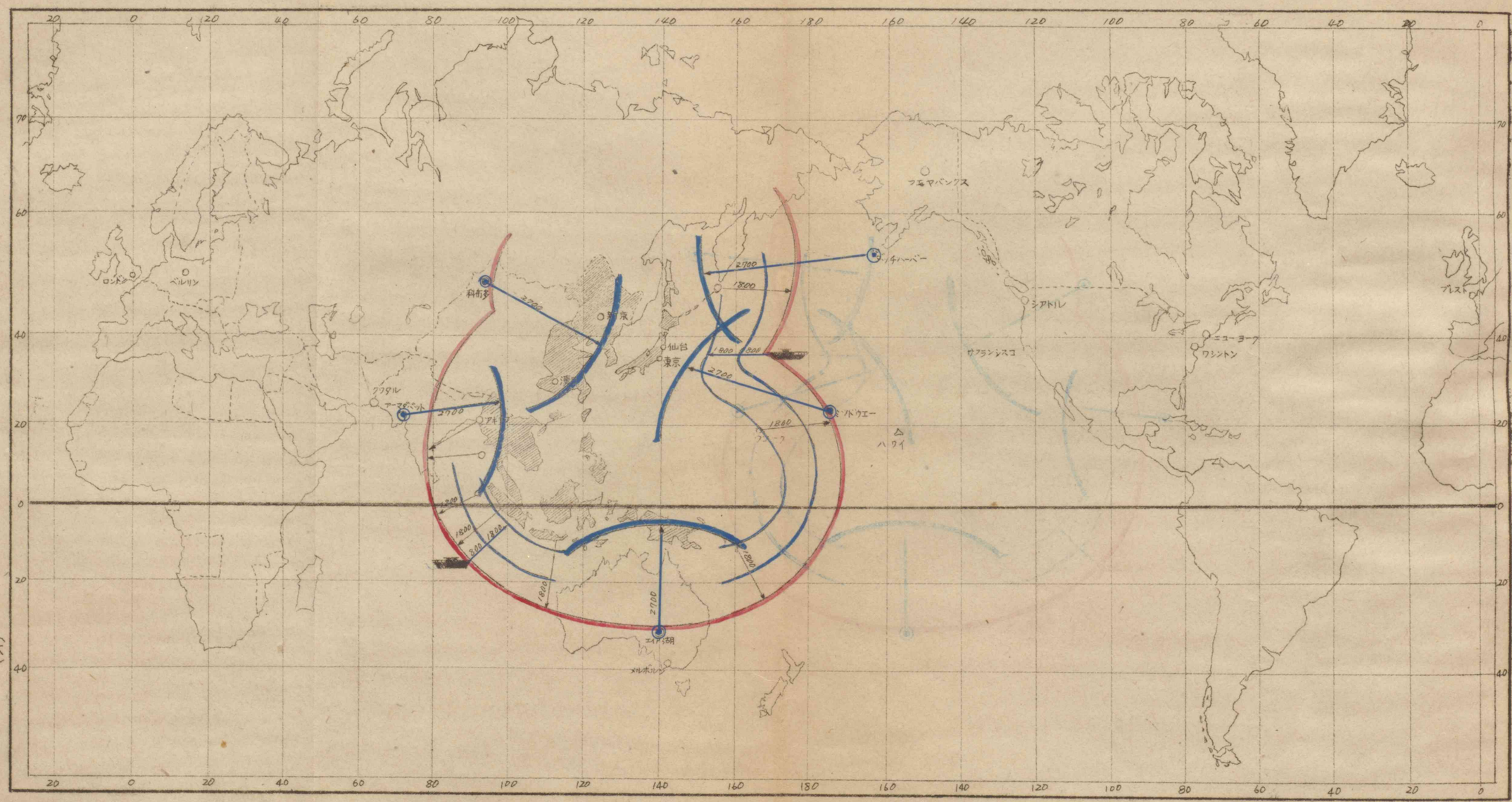
航空母艦機ハ攻撃半径ハ八百粁ヲ越ヘズ、又、ノースアメリカンBニ十五型ノ如キ陸上双發爆撃機ヲ積載シテ來タトシテモ、ソノ攻撃半径ハ一千八百粁デアリマスカラ、青線ノ如クニナリ、彼等ガ餘程ノ冒険行爲ニ出デザル限リ日本本土攻撃ハ不可能デアリマス、昨年四月十八日遣ツタ様ナ冒険行爲ハ、常ニ繰リ返シ行フコトハ出來ルモノデハナイカラ、大体本年ハ日本ノ國防態勢ハ微動ダニスルコトハナイト思フノデアリマス。

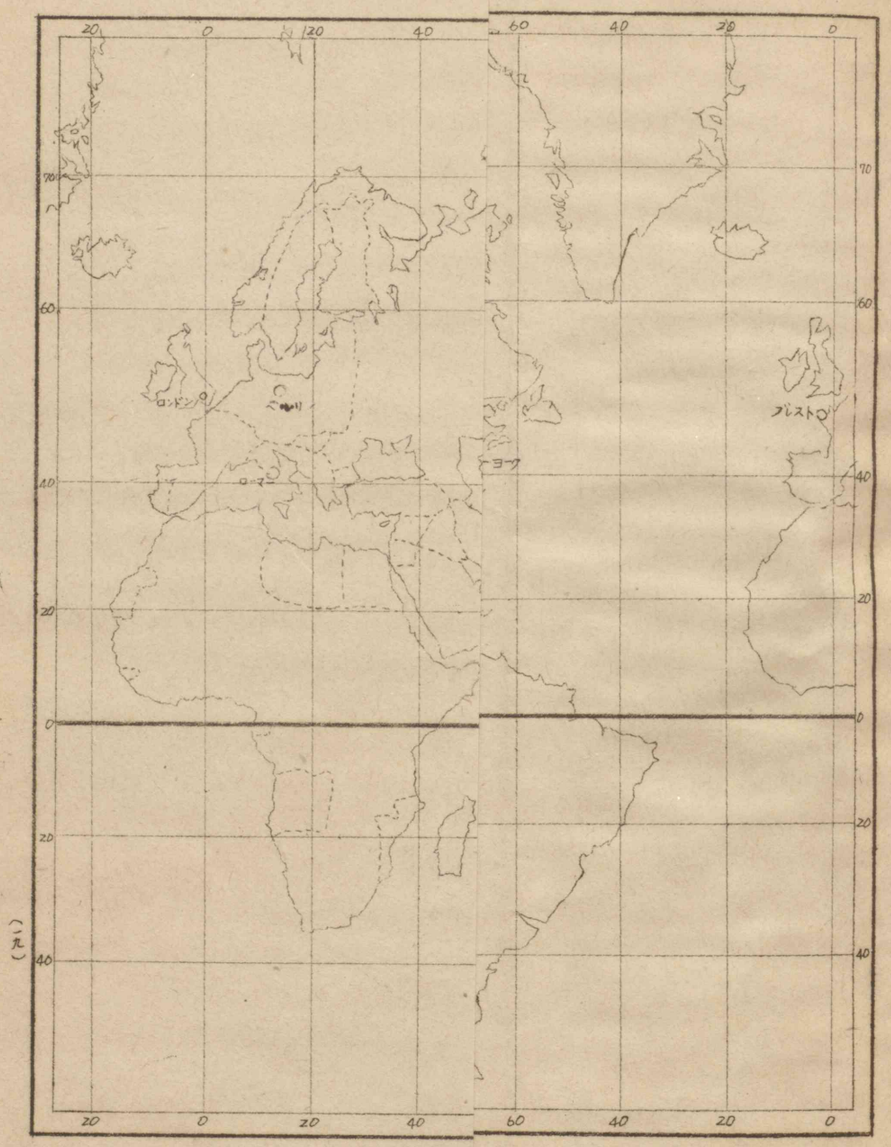
次ハ昭和十九年ノ航空攻防狀勢デアリマスガ第二圖ニ示ス如クナリマス。

日本ノ防衛圏及ビ敵ノ航空母艦機ノ攻撃圏ハ十八年ト変リマセン、然シ本年ハ、空ノ要塞ハボーイングBニ十九型ガ遣ツテ來マスカラ昨年トハ全然形相ヲ異ニスルノデアリマス、Bニ十九型ハ二千馬力四發總馬力八千馬力、航

第一圖

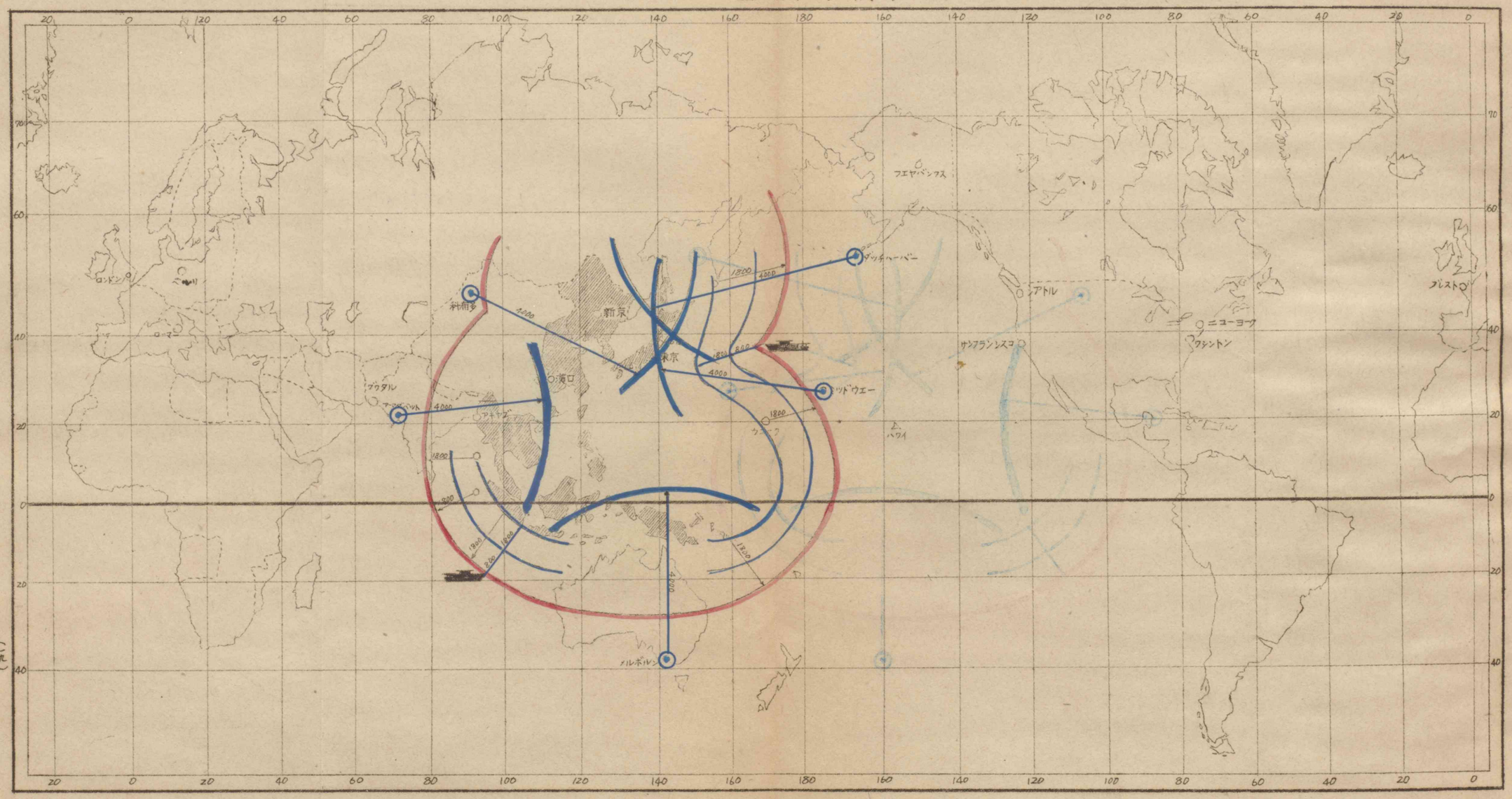
昭和十八年航空航防戰狀況


ロンドン
ベルリン
科布多
新京
仙台
東京
漢口
カタル
アデン
アレクサンドリア
ハワイ
シアトル
サンフランシスコ
ニューヨーク
ワシントン
ブレスト
エイアン湖
メルボルン
2700
1800
1200
1800
2700
1800
1800
1800
1800
1800
2700
1800
1800
1800
1800
2700
1800
1800
1800
1800
1800


ロンドン
ブレスト
(北)

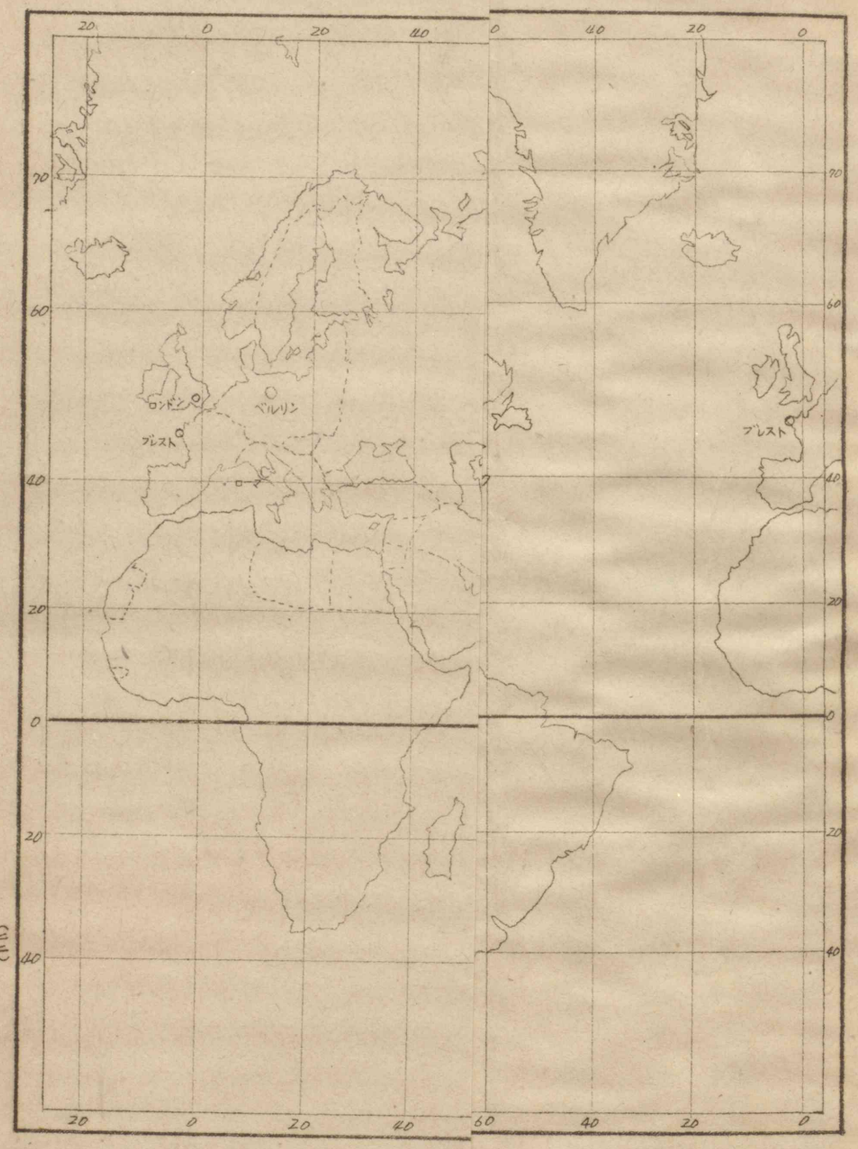
第二圖

昭和十九年航空攻防戰狀況



續距離ハ八千粁乃至九千粁、速力ハ五百五十粁、爆彈積載量ハ二瓲ト推定セラレマス、從ツテ、攻擊半径ハ大体四千粁ニ達スルモノト思ハレマス、ソコデ、四千粁ヲ半径トシテ攻擊圏ヲ畫キマスト、アリユーシヤン、ミッドウエー、支那大陸カラ日本本土ヲ爆擊シ得ルノデアリマス、從ツテ、漫然現狀ノ儘デ行キマスト、十九年ニハ相當ノ危險ガ豫想セラレマス。然シ、今カラ大ニ準備シテ大鳥島カラ歩度ヲ延バシテ、ミッドウエー、ヲ常ニ叩キ、ソノ基地ヲ使用不能ナラシメ、又支那ニ於ケル敵ノ重要基地ヲ占領シ、我ガ基地ヲ前進セシメ、敵ノ基地ヲ使用不能ナラシムルノ策ヲ採レバ、B二十九型ノ攻擊ハ阻止出來ルト思ヒマス。

然シ乍ラ、アリユーシヤン、ミッドウエー、カラ發シテ日本ヲ通過シ、支那最奥地又ハ印度ノ基地ニ着陸スルノ擧ニ出ズル時ハ、相當ノ被害ヲ覺悟シナケレバナリマセン、只爆彈積載量ガ少イカラ、我ガ國防ノ根底ヲ動カス迄



ニハ至ラナイト思ハレルノデアリマス。

次ハ昭和二十年デアリマスガ、第三圖ニ示ス如ク此ノ年ハ實ニ容易ナラザル年デアリマス。

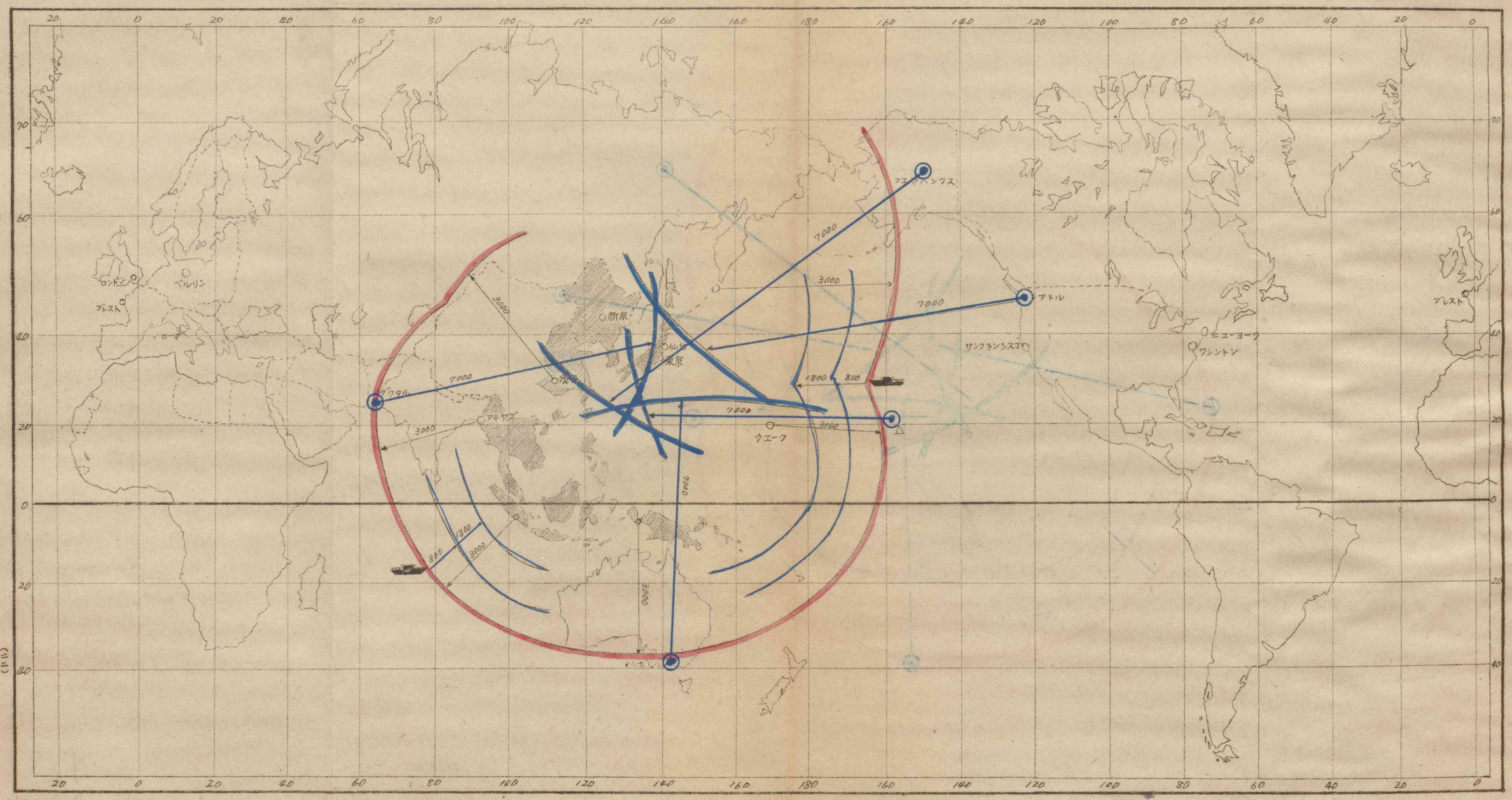
前述スル通リ、二十年ノ後半期ニハ六發爆擊機ガ大規模ニヤツテ來ルコトハ避ケラレマセン、此ノ爆擊機ハ、二千馬力乃至二千五百馬力六發、總馬力一萬二千馬力乃至一萬五千馬力、航續距離ハ一萬五千粁、速力ハ五百五十粁、爆彈積載量ハ距離ニヨツテ異リマスガ、六瓲乃至二十瓲ト云フ偉大ナル性能ヲ有スルモノデアリマス。

從ツテ、攻擊半径ハ悠ニ七千粁ニ達シマスカラ、米本土ヲ始メ支那、印度、濠洲、ハワイ等ノ諸方面カラ一齊ニ日本本土ヲ爆擊シ得ルノデアリマス。

此ノ年ニハ、日本ノ防衛圈ハ半径三千粁ニ擴大セラレマスガ、六發爆擊機ニ對スル防衛ニハ何等ノ効力モ豫期出來マセン。

第三圖

昭和二十年航空攻防戰狀況



ニ對スル防衛ニハ何等ノ効力モ豫期出來マセン。

ソコデ、此ノ結果ドウナルカト申シマスト、此ノ六發爆撃機ノ爆撃能力ハ、從來ノ飛行機トハ比較ニナラヌ程偉大デアリマスカラ、此ノ大編隊ガ日本ノ製鐵工場、アルミ工場等ヲ爆撃スル場合ニハ、徹底的ニ爆破セラレテ仕舞フコトハ確デアリマス、ソウナルト、日本ノ軍需生産ハ全面的ニ停止シ、飛行機モ、戦車モ、艦船モ作ルコトハ出來ナクナル、又次ニ、スマトラ、ジヤバヲ始メ、其ノ他ノ製油工場モ、完全ニ爆破セラレルコトハ明瞭デアリマスカラ、飛行機モ、戦車モ、艦艇モ行動不能ニ陥ルコトハ避ケ得ラレナイト思フノデアリマス。

勿論、在庫品ガアリマスカラ直チニソウナルコトハアリマスマイ、然シ、在庫品ハ單ニ時間ノ問題デアツテ、要スルニ結果ハ同一デアリマス。

斯クノ如ク、戦力ヲ全面的ニ喪失シテ仕舞ヘバ大陸、其ノ他ノ占領地域ニ對スル敵ノ攻撃ハ極メテ容易トナリ、又日本本土ニ對スル進撃モ可能トナリ、

重大ナル運命ニ逢着スルノ憂ガ多分ニアルノデアリマス。

最近、ルーズベルト、ハ日本ニ對シテハ大型爆撃機ヲ多數整備シ、先ヅ日本ノ軍需生産機関ヲ爆破シ、日本ノ戦力ヲ根底カラ掃滅シテ仕舞フ、次ニ大陸及ビ占領諸地域カラ日本軍ヲ追イ拂ッテ仕舞フ、ソレカラ日本本土ヲ攻略シテ東京ニ於テ米軍ノ行進ヲ行ヒ、日本ヲ抹殺シテ、太平洋ニ於ケル米國ノ脅威ヲ永久ニ除去スルト、豪語シテ居ルノデアリマス。

是、一概ニ彼一流ノ人氣取リノタメニスル駄法螺トノミ見ルコトハ出來ナイト思フノデアリマス。

米國ニ於テハ、現ニ大型爆撃機ヲ大掛リニ製産シツツアリ、且ツ、日本爆撃ニ関シテハ、アラユル角度カラ周密ナル計畫ヲ樹テヽ居ルト思ハレマスカラ、ルーズベルト、自身トシテハ、相當ノ根據アル確信ヲ以テ世界ニ聲明シテ居ルモノト考ヘラレルノデアリマス。

ソコデ、此ノ六發爆撃機ガ大集團デ遣ッテ來ル場合ニハ、ロンドン、ベルリン等ノ空襲戦ノ實蹟ニ徴シ、現在ノ戦闘機、高射砲等ヲ以テ防衛スルコトハ絶對ニ不可能ナルコトハ明カデアリマス。

又、陸上勢力、海上勢力ヲ以テシテハ、猶更如何トモナシ難イ。

即チ、現在ノアラユル軍備、アラユル戦法ヲ以テシテモ、之ヲ防衛スルノ道ハナイト云フコトニ歸決スルノデアリマス。

故ニ、現状ノ儘推移スルニ於テハ、米國ニ於ケル六發爆撃機ガ整備セラレル時、即チ昭和二十年後半期ニハ、日本ノ國防態勢ハ根底ヨリ覆ヘリ、非常ナル危機ニ逢着セザルヲ得ナイト思フノデアリマス。

三、歐州戦局ヨリ波及スル國防ノ危機

日本ノ戦爭ハ大東亜戦爭デアル、大東亜戦爭コソ勝チ拔カナケレバナラナイト、皆張リ切ッテ居リマスガ、歐洲戦局ニ對シテハ、多少他處事ノ樣ナ感

ジヲ持ツテ居ルモノガナイデモナイ様ニ思ハレルノデアリマス。大観スレバ、大東亜戰爭ト云フモノガ單獨ニ存在スルト云フコトハ有リ得ナイ。要スルニ、大東亜戰爭ハ世界戰爭ノ一環ニ過ギナイノデアリマス、而シテ、世界戰爭ノ勝敗ノ鍵ハ、實ニ獨ソ戰線ニ懸ツテ居ルノデアリマス。

今ヤ、獨ソ兩國ハ、所謂東部戰線ニ總力ヲ傾倒シ、死鬪ヲ續ケテ居リマスガ、ソ聯ガ破レレバ反樞軸側ノ全敗トナリ、世界ハ樞軸側ノモノトナルコトハ明カデアル、若シモ反對ニ獨逸ガ敗ケル場合ニハ、日本ガ如何ニ頑張ツテモ、結局樞軸側ノ慘敗ニナルコトハ避ケラレナイ。

ソノ結果ドウナルカト云フト、米、英ハ、ソ聯ノ歐州併呑、共産主義ノ全歐化ヲ防止スル楯トシテ、獨逸ヲ存續セシムルコトハ想像ニ難クハナイ、故ニ獨逸ハ慘敗シテモ國ガ亡ビルコトハナイ、一時苦難ニハ陷ルガ又復興スルノ機會ヲ持チ得ルノデアル。

然シ日本ハドウナルカト云ヘバ、日本ニ對シテハ、ルーズベルト、モチヤーチル、モ常ニ抹殺ヲ叫ンデ居リ、米、英ノ國民モ抹殺ヲ唱ヘテ居ルノデアリマス。

日本ノ興隆ハ、眞ニ十億亜細亜民族ヲ興起セシムル因ヲナスモノデアル、亜細亜民族ノ興起ハ、米、英ニトリテハ、現在並ニ將來、其ノ存立ニ大ナル脅威ヲナスモノデアル。

故ニ日本ヲ抹殺スルコトガ、彼等ノ脅威ヲ除去シ、彼等ノ繁榮ヲ護ル所因デアルト、米、英ハ堅ク盲信シテ居ルノデアツテ、先キノワシントン、軍縮會議以來、表面化セル彼等ノ一貫セル國是デアル。

斯ク、獨ソ戰線ニ於ケル獨逸ノ敗戰ハ、日本ニ採リ極メテ重大ナル悲慘事ニシテ、獨ソ戰線コソ、日本ノ運命ノ分レル死線デアルト申サゞルヲ得ナイノデアリマス。

ソコデ、獨ソ戰ノ將來ハ、果シテドウナルカト云フ問題ニナルノデアリマスガ、卒直ニ申シ上ゲレバ、獨逸ノ將來ハ決シテ樂觀ハ許サレナイト思ハレマス。

獨逸ハ既ニ動員能力ハ絶頂ニ達シ、又、軍需生産能力モ絶頂ヲ突イテ居ル、然ルニ近來、大規模ノ連續爆擊ニヨリ、重要生産機関ヲ次々ト爆破セラレ、生産力ハ漸次下リ坂トナリツヽアル、殊ニ、昭和二十年、米國ノ六發爆擊機ノ活躍スルニ至レバ、急激ニ生産力ヲ喪失スルニ至ル恐レガアルノデアリマス。

然ルニ一方、米國ニ於テハ、動員ハ漸ク豫定計畫ノ半バニ達シタ計リデアツテ、未ダ莫大ナル動員餘力ヲ存シ、又生産力ニ於テモ、漸增ノ餘力ヲ有スルコトハ明ガデアリマス。

英國、及ビソ聯ハ、動員能力、生産能力共ニ既ニ絶頂ニアルコトハ、事實

デアリマスガ、ソ聯ニ限リ失地回復ニ從ヒ、動員能力モ、生産能力モ、尚ホ漸增ノ可能性アリト見ナサナケレバナラナイ。

現在、獨逸ノ兵力量、生産力ハ、米、英、ソ、ノ兵力量、生産力ニ比シ遙カニ及バナイ、然ルニ、今後獨逸ハ激減シ、米、英、ソ、ハ更ニ增大スル情勢デアル。

必然タルベキ獨逸ノ夏期攻勢ガ、今年ハ遂ニ防勢ニ轉ジ、惹イテ伊太利ノ政変ヲ惹起スルニ至ル事象ハ、其ノ大勢ヲ反影セルモノデアツテ、容易ナラザル重大事態トシテ考ヘナケレバナラナイ。

故ニ、生産力ニ依ツテ勝敗ガ決セラレル現在ノ舊式戰法ヲ蹈襲スルニ限リニ於テハ、獨逸ハ將來全然勝目ハナイ、ソレ所デハナイ、昭和二十年、米國ノ六發爆擊機ガ整備セラレルニ至レバ、亜弗利加、又ハ英國ヲ基地トシテ、獨逸ノアラユル生産機関、ルーマニヤ、ノ製油工場等ヲ徹底的ニ爆破セラレ、

獨逸ハ全面的ニ戰力ヲ喪失シ、全線ニ亘ツテ手ヲ擧ゲザルヲ得ザルニ立チ至ル危險ガ豫見セラレルノデアリマス。

而シテ、獨逸ノ危機ハ即チ日本ノ危機デアル、茲ニ歐洲戰局ノ危機ガ日本ノ國防態勢ノ上ニ、避ケ難キ重大ナル危機ヲ招來スル原因ヲナスモノデアルト思フノデアリマス。

斯クノ如ク、以上ノ三ツノ中、ドレ一ツヲ以テシテモ日本ノ國防態勢ニ重大ナル危險ヲ豫想セラレルノデアリマス。

而モ此ノ三ツハ、同時ニ日本ニ覆ヒ被サツテ來ル現實ノ問題デアツテ、避ケルコトハ出來ナイ。

故ニ、現狀ノ儘推移スルニ於テハ、悠久二千六百年、金甌無欠ノ皇國ヲ、取リ返シノ付カヌ運命ニ導クノ恐レガ多分ニアルノデアリマス。

若シモ萬一、ソノ樣ナコトガアツタナラバ、吾々現代人ノ罪ハ永遠ニ償フ

コトハ出來ナイ、吾々ハ何ガ何デモ皇國保全ノ重責ヲ果サナケレバナラナイ。

ソコデ、色々ノ方策ガ各方面ニ私議セラレルニ至ツタノデアリマス。次ニ其ノ主ナルモノニ就テ論述致シマス。

第二、皇國保全ノ方(安)策

近時、皇國保全ノ策ハ、外交方略ニ依ル外ニ道ナシトノ議ガ、一角ニ揚ツテ居ル、其ノ一ツハ、日、獨、ソ、三國提携策デアリ、他ノ一ツハ、日、獨、米、英、四國提携策デアリマス。

一、日、獨、ソ、三國提携策

此ノ方略ハ、ソ聯ニ相當ノ利ヲ供シテ、日、獨、ソ、三國提携ヲナシ、獨逸ハ東部戰線ノ軍ヲ擧ゲテ英國ヲ擊破シ、後ニ日、獨、共力シテ米國ヲ攻撃スレバ、遂ニ米國ハ屈スルニ至ラン、ソ聯ニ對シテハ、然ル後ニ之ヲ處理セ

バ、易々タルノミ、コレヅ、戰爭ヲ樞軸側ノ完勝ニ導キ、皇國ノ保全ヲ完フシ得ルノ道デアルト謂フノデアリマス。

成ル程、之ノ筋書通リニ行ケバ、日本ニハ極メテ有利デアルコトハ申ス迄モナイコトデアル、然シ味方ニ有利ノコトハ、敵ニハ不利デアルコトヲ忘レテハナラナイ。

現在ノ戰勢カラスレバ、恐ラク、スターリン、ハ獨逸ハモウ一突キデ倒スコトガ出來ル、獨逸ヲ倒セバ、ソ聯ハ世界最強トナルノデアルカラ、赤化主義ト併行シテ、全歐洲ヲ掌握スルコトハ意ノ儘デアル、次ニ亜細亜ノ處理ニ關シテハ、少クトモ支那、滿洲、朝鮮ハ掌中ノモノデアル、然ル後ニ、米、英ニ對シテハ、赤化構作ヲ以テ内部ヲ攪乱シツヽ武力ヲ以テ之ニ臨メバ、世界制覇ハ近キニアリト考ヘテ居ルニ相違ナイト思フノデアリマス。

ソ聯カラスレバ、斯ク勝勢盛ナル時ニ於テ、日、獨、ソ、三國提携ヲナスコトハ、獨逸ヲ助ケルコトデアリ、獨逸ヲ勝タシメルコトデアリ、ソ聯自体ガ滅ビルコトデアル、之ヲ平タク云ヘバ、今樞軸側ハ非常ニ危險ニナツテ來タカラ、ソ聯少シ休戰シテ呉レンカ、其ノ間ニ日、獨、ハ米、英ヲ撃破シテ仕舞フ、其ノ上デユックリトソ聯ヲヤツツケルカラ、ソレ迄休ンデ居テ呉レ、ト云フ事デアリマス、コンナ外交ガ人類ノ世界ニ通用スルト思フノガ間違ヒデアル、況ンヤ、スターリン、トモアロウ者ガ乘ル筈ハナイ。

斯クノ如キ實現性絶無ノ外交ニ望ヲ屬シ、皇國ノ運命ヲ托セントスルコトハ、最モ危險ナル妄想デアルト断ゼザルヲ得ナイノデアリマス。

二、日、獨、米、英、四國提携策

日、獨、米、英、ノ四國提携策ハ、日、獨ノ承認スル條件ニ依ツテハ成立スル可能性ハアル、ソシテ、結局世界戰爭ハ一先ヅ終局シテ、平和會議ニ成ルト思ハレマス。

然シ、敵ノ勝勢盛ニシテ、味方ニ不利ノ戰勢ニ於テ休戰スルコトハ、要スルニ、窮シテ敵ノ懷ニ投ズルコトト撰ブ所ハナイ。

從ツテ、米、英ハ絶對優越ノ地位ニ立チ、一切ノ指導權ヲ振ヒ、日、獨ニ臨ムコトハ明カデアル、其ノ結果日本ハドウナルデアリマショウカ。

平和會議ハ、隣接弱小國群ノ復讐的狂擾ノ伴奏中ニ、米、英ハ術策ヲ自由ニ振ヒ、大陸及ビ南方占領地域ハ勿論、南洋委任統治領モ失フニ至ルコトハ必至デアル、未ダソレ計リデハナイ、戰爭責任者ノ所罰問題等ノ提起セラルルコトハ、前例ニ徵シテ避ケルコトノ出來ナイコトハ明カデアル。元來、日本ノ抑壓ニ或ル種ノ國家方針ヲ堅持スル米、英ハ、此ノ機會ニ於テ、恐ルベキ最後ノ魔手ヲ持チ出スニ至ルコトハ必至トミナケレバナラナイ。

其ノ時ニ至ツテ、切齒シテモ時既ニ遲シデアル。

究極スル所、無條件降服ト何等撰ブ所ナク、斷ジテ皇國保全ノ道デハナイ。

要スルニ、外交施策ハ、樞軸側ガ勝勢盛ナル場合ニ於テノミ可能デアリ、且ツ有效ヲ期シ得ルモノデアツテ、敵側ガ勝勢極メテ盛ナル戰勢ニ於テハ、其ノ成功ハ不可能デアルノミナラズ、强ヒテ之ヲ行ハントスレバ、結局無條件降服ト同結果ニ終ルコトハ、幾多戰史ノ實證スル所デアツテ、極メテ危險ニシテ、無責任ナル妄策デアルコトヲ、銘記シナケレバナラナイト思フノデアリマス。

三、生産增强敢闘策

次ハ、此ノ危急ニ際シ、迂遠ナル外交施策ニ慢然國運ヲ委スルガ如キハ、最モ危險ナル緩策ニシテ、皇國保全ノ道デハナイ。事茲ニ至ツテハ、最後ノ總力ヲ發揮シ、生産增强ヲナシ、飽ク迄敢闘アルノミ、トスル勇往策デアリマス。

本方策ハ、外交救國策ニ比シ、ヨリ常識的デアル、然シ、深ク考ヘナケレ

バナラナイコトハ、如何ニ生産増強ニ狂奔シテモ、彼我生産力ニ非常ナル懸隔ガアリ、ソノ懸隔ハ益々擴大セラレントスル現情勢下ニ於テハ、只漫然タル生産増強ヲ以テシテハ、勝敗ノ帰決ハ既ニ明瞭デアルコトハ前述セル通リデアリマス。

ソコデ、戦闘機ヲ始メ、現用飛行機ノ製産ヲ重点的ニ増強シ、ソロモン、ニューギニヤ、及ビ、ビルマ、ノ猛反攻ヲ喰ヒ止メルト共ニ、外郭防衛線ヲ堅守スルコソ、目前ノ急務デアリ、最善ノ戦策デアルト云フ構想水準ニ一應到達スルコトハ、必然ノ勢デアラウト思ハレマス。

然シ、此ノ種ノ構想ハ、何人モ必ズ着想シ得ル極メテ尋常平凡ナル水準ニ属スルモノデアッテ、現下ノ重大局面ヲ打開シ、必勝ヲ期スル上ニ寸毫ノ效果ヲモ期待シ得ザルモノデアルト信ズルノデアリマス。

飛行機ノ増産ハ、半年ヤ一年デ、急ニ現在ノ何倍ニモ達セシムルコトハ、

技術的ニモ、又四圍ノ諸情勢カラモ不可能デアル。假リニ辛フジテソレガ出來テ、航空勢力ヲ結集シテ、ソロモン、ニューギニヤ、方面ニ於テ、克ク敵ニ拮抗シ得ル勢力ニ達シ、又、ビルマ方面ニ於ケル非常ニ廣汎タルベキ戦面ニ於テモ、克ク敵ヲ制抑シ得ル勢力ニ達シタリトスルモ、斯クスルコトニヨリテ、他ノ戦面ニ於ケル航空勢力ガ、極メテ稀薄ニナルコトハ、避ケラレナイ、千島方面ニ對スル反攻、日本本土ニ對スル大規模反攻、支那大陸ヨリスル航空大攻勢ハ必至デアッテ、而モ同時ニ來ルコトヲ思フ時、事態ハ極メテ重大デアル、之等ノアラユル方面ニ備ヘントスレバ、ソロモン、ビルマ方面ハ劣勢トナリ堪ヘ難クナルコトハ事明ノ理デアル。

要スルニ、外郭防衛線ハ、日本ノ飛行機製産能力ガ米國ノ十倍ニ達シテモ、到底完璧ヲ期シ得ナイコトハ瞭デアル、況ンヤ、彼我生産力ノ現實ヲ正視スル時、ソノ成リ行キハ識ルベキノミデアル。

更ニ一歩ヲ進メテ、假リニ外郭防衛線ノ防備ノ完璧ヲ期シ得タトシテモ、ソレデ日本ハ安全カト云フト、ソウハ行カナイ。

外郭防衛線ハ如何ニ堅固デアッテモ、敵ノ大發爆擊機ガ直接我ガ生産源ヲ爆破シテ仕舞フ場合ニハ、日本ハ戰力ヲ喪失シテ、抗戰不能トナリ、重大危機ニ逢着スルコトハ必至デアル。

又、敵ノ大發空ノ要塞ガ、獨逸ノ戰力源ヲ爆碎シ、タメニ獨逸ガ戰力ヲ喪失シテ崩壞スル場合ニハ、樞軸側ノ全敗トナリ、悲慘ナル運命ニ突入スルニ至ルコトモ瞭デアル。

斯クノ如ク、本項ノ構想水準ハ、極メテ凡俗淺薄ナル方(妄)策ニシテ、斷ジテ皇國保全ノ道ニアラザルコトハ、一、二、ノ外交妄策ト同一ニシテ、選ブ所ハナイト申サザルヲ得ナイノデアリマス。

ソコデ、此ノ重大危機ヲ急速ニ打開シ、聖戰ノ目的ヲ達成スルタメニハ、

現在ノ構想水準デハ皆駄目デアル、ドウシテモ、普通ノ構想水準ヲ甚ダシク超躍セル、雄渾ナル劃期的新構想ニ俟ツ以外ニ道ハナイト云フコトニ歸結スルノデアリマス。

第三、必勝戰策ニ関スル新構想

一體、日本ハツイ先頃迄赫々タル戰勝ニ歡喜シ、次ニハ絶對不敗ノ國防態勢ノ確立ニ安ジテ居ッタニ係ラズ、日ナラズシテ前途ニ重大ナル危機ヲ豫見シ得ルニ至ッタト云フコトハ、ドウシタ譯デアルカ。

其ノ原因ハ種々アラウト思ヒマスガ、最モ重大ナル原因ハ、最近兵器ノ異狀ナル進歩發達ニ依リ、從來ノ戰策ハ、既ニ實質的ニ根底カラ変革セラレテ仕舞ッテ居ルノデアル、然ルニ、此ノ現實ノ眞理ニ則セズ、依然トシテ過去ノ舊式戰法ニ執着シ、之ヲ踏襲シテ居ル所ニアルト思フノデアリマス。

ソコデ、此ノ危機ヲ打開シ、必勝ヲ期スルノ道ハ、戰策変革ノ實相ヲ把握シ、其ノ眞理ニ則シテ、急速ニ必勝戰策ヲ構想シ、其ノ戰策遂行ニ必要ナル兵器ノ整備ニ、生産能力ヲ傾倒シ、以テ、極メテ迅速ニ、新戰策ヲ展開スベキデアルト確信スルノデアリマス。

從ッテ、必勝戰策ノ新構想ガ、一切ニ先行スル至上命令トナルノデアリマス。

ソコデ研究ノ結果、次ノ構想ニ到達致シタ次第デアリマス。

一、防衛戰策

二、米國撃滅戰策

三、獨逸必勝戰策

之ヨリ順次ソノ大要ヲ申述ベマス。

一、防衛戰策

我ガ本土及ビ領域ノ防衛ヲ直接脅威スルモノハ、敵ノ大型空ノ要塞デアルコトハ前ニ申述ベタ通リデアリマス。此ノ空ノ要塞ノ大集團ヲ以テスル空襲ニ對シ、完全防衛ノ道ハ現在ニ於テハ絶對ニアリマセン。

獨逸ノゲーリング元帥ハ、先ニ獨逸ノ戰鬪機ハ其ノ質ニ於テ、量ニ於テ、遙カニ敵ヲ凌駕シテ居リ、又、高射砲等ヲ以テスル防空陣ハ周到完璧デアルカラ、米、英機ハ一機タリトモ、ベルリン、ノ上空ニハ寄セ付ケナイト聲明シタノデアリマス。

然ルニ、遂ニ、ベルリン市民ニ對シ、退去疎散命令ヲ發シ、之ヲ強制セザルヲ得ザルニ立チ至ッタト云フコトハ、此ノ事實ヲ有力ニ實證スルモノデアリマス。

故ニ、現在ノ型式ノ飛行機ヲ如何ニ製産増強シテモ、大型空ノ要塞ノ大空襲ヲ防衛スルコトハ絶對ニ出來ナイ、況ヤ、陸上勢力、海上勢力ニ至ッテハ

猶更デアル。

即チ現在ノ軍備、現在ノ戰策ヲ以テシテハ、國土防衛ハ絶對不可能ニ屬スルノデアリマス。

然ラバ方法ハ全然無イカト云ヘバ、無イコトハナイ。有ルノデアリマス。

飛行機ハ、ソレ自体ニ重大ナル欠陥ヲ包藏シテ居ル、即チ、一ツノ致命的急所ガアル。ソノ急所ヲ突ケバ、飛行機ハ全然ソノ機能ヲ失シ、行動不能トナルノデアリマス。

ソノ急所ト云フノハ飛行場デアリマス、飛行場ガナケレバ、飛行機ハ飛ブコトハ出來ナイ、又、飛ンデ居ル飛行機デモ、飛行場ヲ失ヘバソレ迄デアル。

故ニ日本空襲可能ノ敵ノ飛行場ヲ、完全ニ爆破シテ仕舞ヘバ、敵ノ空襲ハ不可能トナリ、空襲ニ依ル危機ハ完全ニ除去シ得ルノデアリマス。

故ニ航空戰術ノ要訣ハ、飛行場ノ完全爆破ニアルノデアツテ、空中ニ於テ

個々ノ飛行機ヲ撃墜スルノ如キハ、寧ロ末梢的戰術ニ屬スベキモノデアルト思フノデアリマス。

茲ニ、航空戰策ニ一大轉換ノ必要ガアルノデアリマス。

所デ、飛行場完全爆破ト云フコトハ、今日迄ノ實戰ノ經驗ニ徵シ、云フベクシテ不可能デアルトノ論議ガアルノデアリマス。

ソレハ、現在ノ如キ漸ク一瓲位シカ爆彈積載力ノナイ小型爆撃機ヲ以テシテハ、飛行場ヲ完全爆破出來ナイコトガ、理論上、當然デアル。

今假リニ、百萬坪ノ飛行場爆破ヲ考ヘテ見マスト、一瓲爆彈ノ破壞威力ハ地盤ニ依ツテ異リマスガ、普通地盤デアレバ、深度十五米、直径五十米ト謂ハレテ居リマスカラ、百萬坪ノ飛行場ヲ完全爆破スルタメニハ、一千六百個ノ一瓲爆彈ヲ、五十米間隔ニ萬遍ナクバラマカナケレバナラナイ。

從ツテ、現有双發爆撃機ヲ以テ之ヲ行フニハ、一千六百機ガ五十米間隔ノ

密集編隊ヲ以テ、敵飛行場上空ニ至リ、一齊投彈ヲシナケレバ出來ナイ。

實際ニ於テ、敵ノ防空砲火ヲ冒シ、敵戰鬪機ノ攻擊ヲ押シ切リ、斯カル多數ノ大密集編隊ヲ、整然ト敵飛行場上空ニ至ラシムルコトソレ自体ガ困難デアル、假リニ行ケタトシテモ、斯カル多數ノ飛行機ガ一齊投彈ヲ行フコトハ、技術的ニ不可能ニ屬スルノデアリマス。

從ツテ、今日迄ノ實戰ニ於ケル飛行場爆擊ハ、五十機乃至百機以内ノ編隊ヲ以テ、百瓩以内ノ小量爆彈ヲ、バラバラニ投下シテ來タノデアツテ、實際ハ、飛行場一部ノ爆破ニ終ツテ居ルニ過ギナイノデアリマス。

一部爆破デハ、直チニ修理セラレテ仕舞フカラ殆ド效果ハナイ。飛行場完全爆破ハ出來ナイト云フ論據ハ茲カラ出テ來ルノデアツテ、小型爆擊機ヲ以テシテハ出來ナイノガアタリマヘデアル。

ソレナラ飛行場完全爆破ハ出來ナイモノデアルカト云フト、決シテソンナ

コトハナイ、多數爆彈ヲ積載シ得ル大型爆擊機ヲ以テスレバ、容易ニ出來ルノデアリマス。

一瓩爆彈二十個ヲ積載シ、五十米間隔ニ機械的ニ投彈シ得ル裝置ヲ持ツ大型爆擊機ナラバ、一機ヲ以テ、巾五十米、長サ一千米ノ面積ヲ、十五米ノ深度ニテ吹キ飛バスコトガ出來ルノデアリマス。

從ツテ、五十米間隔ノ二十機横隊ヲ以テスレバ、一千米平方、即チ二十五萬坪ヲ、深度十五米ニテ吹キ飛バシテ仕舞フ、四十機ナラバ、五十萬坪、八十機ナラバ百萬坪ヲ、十五米深度ニテ吹キ飛バシテ仕舞フコトガ出來ルノデアリマス。八十機位ノ編隊ナラバ、常ニヤツテ居ル手頃ノモノデアツテ、決シテ難事デハアリマセン。

故ニ、大型爆擊機ノ小數編隊ヲ以テスレバ、飛行場ハ確實ニ完全爆破ヲナシ得ルノデアリマス。

近頃ハ飛行場修理ノ技術ガ進ンデ居リマスカラ、一端爆破シテモ、間モナク修復スル、故ニ二、三週間置キニ、遂次繰リ返シ再爆破スレバ、永久完全爆破ノ實ヲ擧ゲ得ルノデアリマス(四六)

要スルニ、敵ノ空ノ要塞ヨリモ遙カニ大ナル攻撃半径ヲ持チ、而モ多數爆彈ヲ積載シ得ル、大型爆撃機ヲ急速ニ整備シ、敵ノ日本空襲可能ノ飛行場ヲ完全爆破スレバ、敵ノ空ノ要塞ノ日本攻撃ハ、之ヲ完封スルコトガ出來ルノデアリマス。

尚ホ、此ノ大型爆撃機ヲ有スル限リ、敵ノ航空母艦、艦隊、輸送船團等ハ、日本領域ニ近接スルコトガ全然不可能トナリマスカラ、外郭防衛陣、即チ、ソロモン、ビルマ等ノ戰鬪モ我ガ方ノ一方的戰爭トナリ、極メテ安固トナリ、茲ニ再ビ不敗ノ新國防態勢ガ確立セラルヽニ至ルト思フノデアリマス。

之ガ防衛戰策ノ大綱デアリマス。

二、米國撃滅戰策

日、米両國ノ生産力ノ懸隔ノ大ナルコトハ、前ニ述ベタ通リデアリマス。

從ッテ、生産力ニ依ッテ勝敗ガ決セラレル現戰策ヲ踏襲スル限リニ於テハ、絶對ニ勝目ハ無イ。

米國ニ必勝スルタメニハ、全然生産力ニ関係ナク撃破シ得ル戰策、即チ、僅少ナル生産力ヲ以テ、厖大ナル生産力ニ對抗シ、必勝シ得ル戰策ニ依ル以外ニ道ハ有リ得ナイト確信致シマス。

一體、ソンナ不思議ノ戰策ガ、果シテ世ニ有リ得ルカト云フ問題ニナルノデアリマスガ、大ニ有ルノデアリマス。

現行戰策ハ、第一線ニ戰力ヲ結集シ、互ニ其ノ戰力ヲ撃破シアッテ、勝敗ヲ決スルノデアルガ、其ノ戰力ノ源泉ハ後方ノ生産力ニアルノデアリマス。

而シテ、現在ノ生産組織ニハ、一ツノ致命的欠陥、即チ致命的急所ガ内在(四七)

シテ居リ、其ノ急所ヲ衝ク時ハ、生産力ハ全面的ニ麻痺シテ、機能ヲ失スルニ至ルコトハ免レナイノデアリマス。ソシテ、其ノ急所ト云フノハ、軍需生産ノ源泉ヲナス製鐵所デアリマス、尚ホ、強ヒテ云ヘバ、更ニ、アルミ製造工場、製油工場ヲ加ヘタル、小數ノ局地的源泉工場デアリマス。

故ニ、第一線ノ戰力ノ源泉ハ生産力デアリ、又、ソノ生産力ノ源泉デアリ、急所ヲ爲スモノハ、製鐵所等デアル、敵ノ此ノ急所ヲ撃破スル時ハ、生産力ハ全面的ニ停止シ、第一線ノ戰力ヲ一擧ニ喪失セシムルコトガ出來ル。從ツテ、敵ヲ撃滅シ、必勝ヲ期シ得ルコトハ、疑ヒノ餘地ヲ存シナイ。

而シテ、米國ニ於ケル製鐵所、アルミ工場、製油工場等ハ、小數ノ局地的存在デアルカラ、小數ノ爆撃機ト爆彈トヲ以テ、短期間ニ完全ニ撃破スルコトガ出來ル。

故ニ之ヲ成スニハ、何モ大ナル生産力ヲ必要トシナイ、僅少ナル生産力ヲ

以テ足リルノデアリマス。

此ノ戰策ヲ以テスレバ、僅少ナル生産力ヲ以テ、米國ノ厖大ナル生産力ヲ制壓シ、速カニ必勝ヲ期シ得ルノデアル。

要スルニ、米國ノ全土ヲ爆撃シ得ル偉大ナル攻撃半径ヲ持チ、且ツ多數爆彈ヲ積載シ得ル、超大型爆撃機ヲ整備シ、先ヅ米國ニ於ケル製鐵所、アルミ工場ヲ襲撃シ、之ヲ徹底的ニ爆破シテ仕舞フ。

ソウスレバ、米國ノ世界ニ誇ル、厖大ナル軍需生産力ハ、一擧ニ機能ヲ停止セシムルコトガ出來ル。

次ニ製油工場ヲ爆破シテ仕舞ヘバ、飛行機モ、戰車モ、艦艇モ行動不能トナリ、全面的ニ戰力ヲ喪失セシムルコトガ出來ル、茲迄來レバ、最早容易ニ之ヲ撃滅シ得ルコトハ論議ノ餘地ハナイト思フノデアリマス。

以上ガ米國撃滅戰策ノ大綱デアリマス。

三、獨逸必勝戦策

獨逸ハ本年ハ夏期攻撃ヲ放棄シテ、防勢ニ轉ジ、其ノ理由トシテ、ソ聯軍ヲ惹キ付ケ、其ノ兵員ト兵器トヲ消耗セシメ、以テ敵ノ戦力ヲ撃破スルト云フヨリ效果的戦策ヲ採ッタノデアルト聲明シテ居リマス。

然シ乍ラ、兵員ト兵器ノ消耗ハ、両軍共相互デアッテ、果シテソノ消耗差ガ、良ク反樞軸側ノ動員能力ト生産力ノ優越量ニ匹敵シ得ルヤ、心細キ限リデアル。

ソ聯ノ戦力ヲ撃破セントスルナラバ大型飛行機ヲ以テ、ソ聯ノ製鐵所、アルミ工場、製油工場ヲ爆破スレバ、極メテ短期間ニ、一擊ニ全戦力ヲ掃滅シ得ルノ妙策ガアルノデアル。

然ルニ、第一線ニ於テ、態々、敵ノ戦力ノ集結ヲ待ッテ、死闘ニ依ッテ之ヲ撃破セントスルガ如キハ、極メテ愚劣ニシテ、危險ナル舊式戦法ト申サナ

ケレバナリマセン。

獨逸ガ、斯カル舊式戦法ニ執着シテ居ル所ニ非常ナル危機ガ内在スルコトハ、前述ノ通リデアリマス。

ヒットラー總統ノ賢明ヲ以テ、敢テ之ノ危險ナル舊式戦策ヲ脱シ得ザル理由ハ、獨逸ガ從來飛行機政策ヲ誤リ、小型飛行機ノミニ執着シ、大型飛行機製産ノ準備トカトニ欠ケル所アルコトニ歸結スルト思フノデアリマス。

ソコデ、獨逸ノ重大危機ヲ打開シ、必勝セシムルノ方策ハ、日本ニ於テ、ソ聯全土ヲ掩ヒ得ル攻撃半径ヲ持ッ、大型爆撃機ヲ急速ニ整備シ、昭和二十年中期、米國ノ六發爆撃機出現ニヨル、獨逸ノ大危機到來以前ニ於テ、ソ聯ノ製鐵所、アルミ工場、製油工場ヲ爆破シ、ソ聯ノ戦力ヲ徹底的ニ掃滅シ、ソ聯ヲシテ全面的ニ抗戦不能ニ陷ラシメ、全線ニ亘ッテ手ヲ擧ゲザルヲ得ザルニ至ラシムル以外ニ道ハナイ。

斯クシテ、獨逸ハ一擧ニ東部戰線ニ於テ完勝シ、依ツテ以テ世界戰爭全局ニ對シ、樞軸側完勝ノ鍵ヲ開キ得ルト思フノデアリマス。

之ガ獨逸必勝戰策ノ大綱デアリマス。

以上ノ三戰策ヲ急速ニ遂行スルコトニヨツテ、國土防衛ハ完璧トナリ、且ツ、米國ヲ擊滅シ、獨逸ハ、ソ、英ヲ破リ、短期間ニ樞軸側ノ完勝裡ニ世界戰爭ヲ終局セシメ、聖戰ノ目的ヲ完遂スルコトガ出來得ルト信ズルノデアリマス。

第四、必勝戰策遂行ニ必要ナル兵器ノ構想

一、必勝兵器ノ具備スベキ基礎條件

以上ノ必勝三戰策ヲ完全ニ遂行スルタメニハ、敵ノ空ノ要塞ヨリモ遙カニ偉大ナル攻擊半径ヲ持チ、且ツ多量ノ爆彈ヲ積載シ得ル、超大型爆擊機サヘ

アレバ充分デアルコトガ、前述スル所ニヨツテ明カトナツタノデアリマス。

ソコデ、ソノ具備スベキ基礎條件ハ次ノ如クナルノデアリマス、

(一) 攻擊半径、

攻擊半径ハ、米國ノ六發空ノ要塞ヨリ、遙カニ偉大タルベキコトハ勿論デアルガ、更ニ敵ノ全領域ヲ爆擊可能ノタメ、最小限度ハ千五百粁ヲ下ラザルコト。

(二) 爆彈積載量

一匙爆彈二十個以上ヲ積載シ得ルコト。

(三) 防禦力

敵ノ領土内ニ深ク突入スルタメ、敵ノ集注攻擊ヲ受ケルコトハ必至デアル。

故ニ大ナル防禦力ヲ必要トスル、有力ナル銃砲火器、厚キ裝甲板等ハ

勿論必要デアルガ、最モ重要ナル防禦力ハ優越セル速力デアル、速力ガ敵ノ戰鬪機ヨリ偉大デアレバ最モ安全デアル、故ニ最少限度、敵ノ戰鬪機ト同等以上速力ヲ發揮シ得ルコトヲ必要トスル。

(四) 高々度飛行能力

高々度ヨリスル爆擊ハ、種々ノ点ニ於テ有利ニシテ必要ナル要件デアル、故ニ一萬米以上ノ高々度飛行性能ヲ具備スルコトヲ必要トス。

(五) 所要爆擊效力ニ對シ製産資材ノ僅少ナルコト

、日本ノ生産能力ノ現實ヨリ、如何ニ理想的ノ兵器デアッテモ、莫大ナル製産資材及ビ製産施設ヲ要スルモノデアッテハ役ニ立タナイ。

所要爆擊效力ニ對シ、極メテ僅少ナル製産機関、製産資材ヲ以テ足ルコトヲ要ス。

二、五千馬力六發三萬馬力超大型飛行機

以上ノ基礎條件ヲ具備スベキ飛行機ノ構想設計ニ関シ、技術者ノ長期ニ亘ル研究ノ結果、二千五百馬力六發一萬五千馬力飛行機デハ、米國ト同一デアッテ、再ビ生産力ノ競爭ニ墮シ、無意義デアルベカリデナク、前述ノ基礎條件ヲ滿スカガ足リナイ、又、五千馬力四發二萬馬力飛行機デモ所要ノ任務達成ニハ力ガ不足デアル。

ソコデ、更ニ深ク進ンデ、研究ニ研究ヲ重ネタ結果、竟ニ五千馬力六發三萬馬力飛行機ヲ以テスレバ、一切ノ基礎條件ヲ完全ニ滿タシ得ルト云フ結論ニ到達シタノデアリマス。

其ノ型式、性能ハ、第四圖ニ示ス通リデアリマス。即チ、動力ハ五千馬力空冷發動機六基裝備三萬馬力、翼面積ハ三百五十平方米、全備重量ハ百七十五瓩、速力ハ六百八十粁時、爆彈積載量ト航續距離トノ関係ハ、二十瓩ノ場

合一萬六千粁、十瓲ノ場合一萬八千粁デアリ、航續距離ノ短縮ニ從ヒ五十瓲迄積載シ得ル裝置ヲ備ヘル。

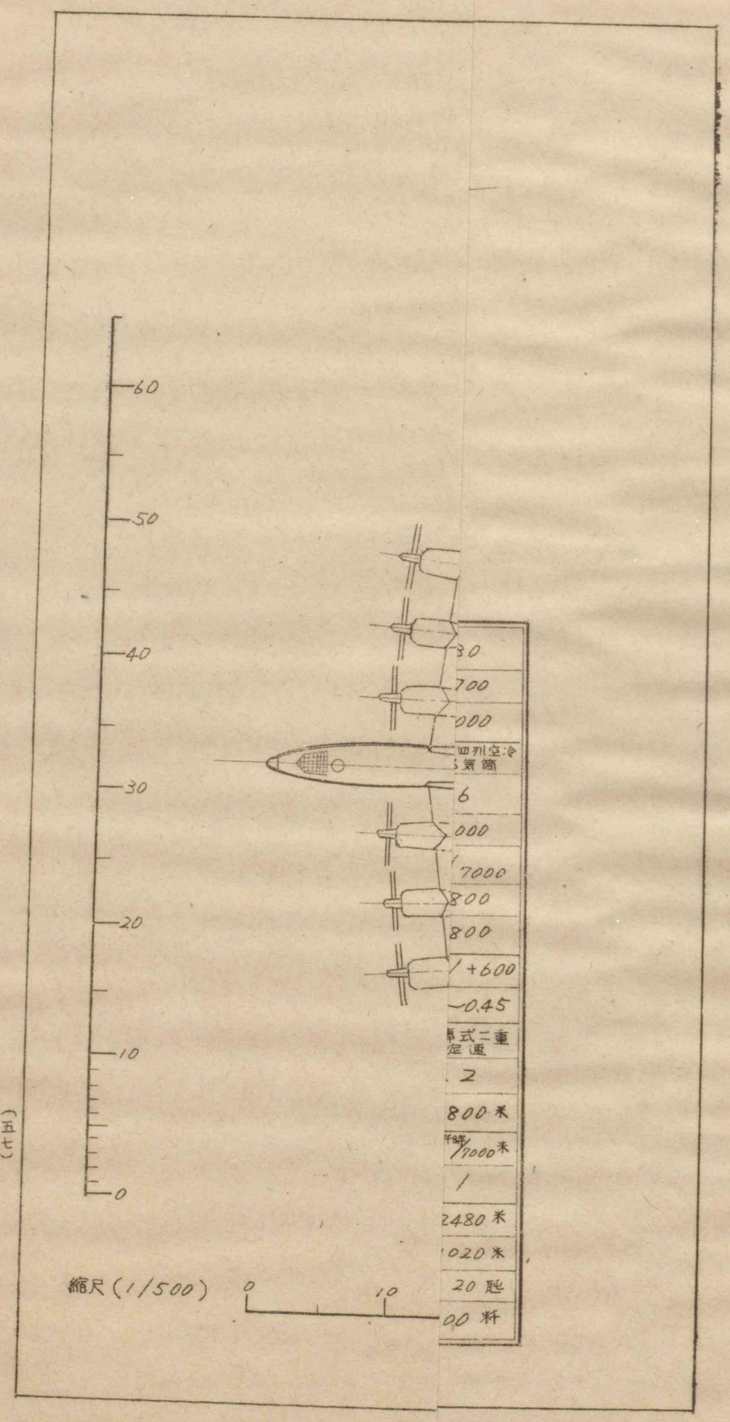
斯クノ如ク、此ノ飛行機ヲ以テスレバ、完全ニ必勝三戰策ヲ遂行シ得テ、急速ニ本戰爭ノ完勝ヲ期シ得ルノデアリマス。

故ニ、皇國ノ興廢ハ此ノ飛行機ノ成否一ツニ懸ルノデアリマス。依ッテ又飛行機ト命名シタ次第デアリマス。

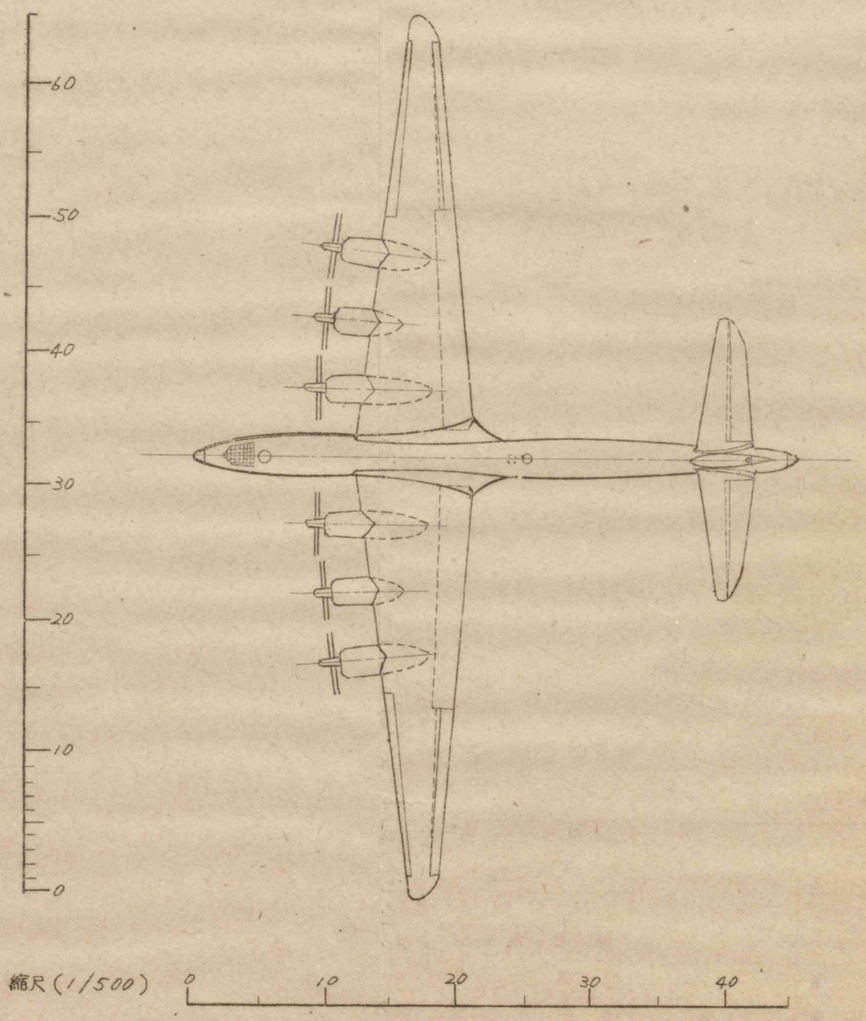
ソコデ、問題ハ、果シテ製産可能ナリヤ、ト云フコトニナルノデアリマス。

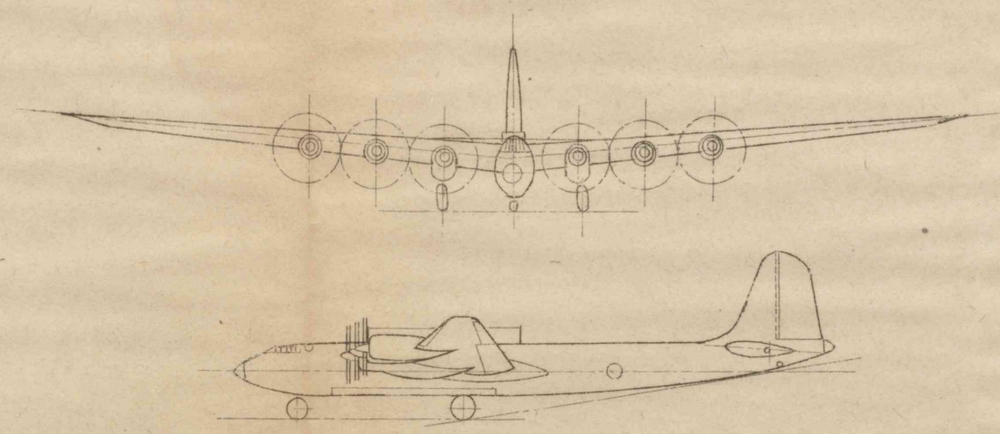
現在、世界ニ於テ計畫中ノ最大ノ飛行機ハ、米國ニ於ケル二千五百馬力空ノ要塞デアル、五千馬力ト云フ樣ナ桁外レノ大型空冷發動機ハ、未ダ何レノ國ニ於テモ想像モサレテ居ナイモノデアル。

又、三萬馬力ト云フ大型飛行機ハ、世界ニ於テ未ダ計畫セラレタコトヲ聞カナイモノデアル。



第四圖





要目表

型式	中翼六發爆擊機		
主要寸度	全幅		65.000米
	全長(水平靜止時)		45.000米
	全高(水平靜止時)		12.000米
	三点靜止角		9度
主翼	翼面積		350平方米
	最大翼弦		9.000米
	上反角		3.5度
	縱横比		12.0
	先細比		1:5
	取付角		6.0度
尾翼	水平尾翼面積		60.0平方米
	垂直尾翼面積		40.0平方米
	車輪間隔		9.000米
タンク容量	燃料	胴体内タンク	42.720立
		翼内タンク	57.200立
		増設タンク	
	潤滑油タンク		
荷重	翼面荷重		457瓩/平方米
	馬力荷重		5.3瓩/馬力

重量	自重(固定装備ヲ含ム)		67.30
	搭載量		92.700
	正規全備		160.000
發動機	型式		BHダブル四列空冷星型36気筒
	基數		6
	馬力	離昇 最大馬力	5000
		高空 公称馬力/公称高度	4600/7000
	回転數	離昇時最大	2800
		公称	2800
	ブースト圧力	公称/離昇	+400/+600
	減速比		0.4—0.45
プロペラ	型式		全旋轉式二重反転定速
	翼數		3×2
	直径		4.800米
性能	速力	最大/高度	軽荷680粁/7000米
		巡航/高度	/ /
	實用上昇限度		軽荷12480米
	離昇 無風時		正規1020米
	航續 爆弾		20瓩
	距離		16000粁

是ガ日本ノ技量ヲ以テ、果シテ實現性ガアルダラウカトノ懸念ガ生ズルノハ、一應尤モデアリマス。

然シ、研究ノ結果、製産ハ断然可能デアルコトガ確認セラレタノデアリマス。

世界中皆ヤツテ居ルコトヲヤツタノデハ、勝目ハナイ、世界列强何レニ於テモ、未ダ想像外ニアルコトヲ断行スル所ニ、必勝ノ妙諦ガ存スルノデアリマス。

五千馬力空冷發動機ハ、實ハ、現有ニ千五百馬力空冷二列十八氣筒發動機二機ヲ、タンデムニ連結シタ所ノ四列三十六氣筒ノ型式デアツテ、只問題ハ、氣筒冷却ノ能否一ツデアル。

之ノ問題ハ、累次ノ實驗ノ結果、特種ノ裝置ヲ附加スルコトニヨリ、完全ニ冷却可能トナツタノデ、五千馬力發動機ノ製産ハ、比較的容易ニシテ、且

ツ確實トナツタノデアリマス。

次ハ飛行機機体デアリマスガ、設計圖ノ數字ニ示ス如ク、主翼面積ハ三百五十平方米デアツテ、現在米國デ飛ンデ居ル所ノ、ダグラス十九型輸送機ノ四百平方米ヨリ小サク、決シテ桁外レノ化ケ物的存在デハナイ。日本デハ、大東亜戰爭勃發以前ニ於テ、既ニ二百平方米ノ四發飛行機ノ設計製産ニ成功シテ居ル、此ノ經驗ト、現實トヨリ、三百五十平方米位ノ機体ノ製産ハ、技術的ニ何等懸念ノ餘地ハナイト、技術關係デハ張リ切ツテ居ルノデアリマス。

從ツテ、本飛行機ノ製産ノ可能性ハ、技術的常識ヲ以テシテハ、何等疑問ノ餘地ヲ存シナイノデアリマス。

三、乙飛行機ノ製産資材節約上ノ優越性

乙飛行機ハ前述ノ資材僅少ノ基礎條件ニ、完全ニ合致スルモノデアリマス。

從來超大型飛行機ハ、其ノ生産ニ莫大ナル資材ト勞働力トヲ要スル、又飛

行ニ際シテハ、莫大ノガソリンヲ消費スル。

從ツテ米國ノ如キ厖大ナル生産力ニ惠マレタル國ニ於テハ兎モ角、日本ノ如キ、生産力ニ小ナル限度ガアリ、而モ外郭防衛圏ノ長大ナル國柄ニアリテハ、超大型飛行機ハ採用スベカラザルモノデアル、ソレヨリハ寧ロ、小型飛行機ヲ多數整備スルコトガ、作戰上最モ賢明ナル上策デアルトノ考ヘ方ガ、一般ノ通念ヲナシテ居ツタノデアリマス。

是レ實ニ、最モ重大ナル錯誤デアリ、國防上極メテ危險ナル禍根ヲナスモノデアルト申サナケレバナリマセン。

飛行機ノ重要目的ハ敵ヲ爆滅スルコトデアツテ、其ノ他ノコトハ枝葉末節ノ些事デアル、從ツテ飛行機ノ生命ハ爆擊力デアツテ、最モ貴重ナル要素ハ爆彈搭載力デアル、而シテ、最小ノ生産力、最少ノ資材、人力ヲ以テ、最大ノ爆擊效力ヲ發揮スルニハ、大型飛行機程有利デアリ、小型飛行機程不利デ

アルコトハ、不変ノ原則デアル。

此ノ原則ハ、乙飛行機ト他ノ飛行機トノ諸元ヲ、數理的ニ比較検討スレバ一目瞭然ニシテ、寸毫モ論議ノ餘地ヲ存シナイ。

第二表ハ乙飛行機ト、米國ニ於ケル最新鋭双發爆撃機マーチンB二十六トノ比較ヲ示シタモノデアリマス。

乙飛行機ト　マーチンB二十六トノ比率ハ、爆彈搭載量ハ八十瓩對一瓩デアルカラ、同一爆撃效力ニ對スル機數比ハ一機對八十機トナリ、機体製産ニ要スル　ヂュラルミン材料比ハ六十五瓩對六百九十六瓩、ガソリン消費量ハ十九瓩對二百二十二瓩トナル。

斯クノ如ク、大型飛行機ハ小型飛行機ニ比シ、驚嘆スベキ程、僅少ナル資材ト、ガソリンヲ以テ足リルノデアル。

尚ホ、マーチン十萬機ニ對シ、乙飛行機ハ僅カ　千二百五十機ニテ足リ、

第二表

大型飛行機戦策ト小型飛行機戦策比較

航空軍団戦力比較		
飛行場数	一三	五〇〇
機体工場	五	五〇
發動機工場	三	三四
從業員数	二一〇、〇〇〇人	二、一八〇、〇〇〇人
製産施設比較（航空軍団建設）		単位工場、面積七万坪、從業員三万人 単位工場、機械数四千台、從業員二万人

第二表　大型飛行機戦策ト小型飛行機戦策比較

要項		六發超重爆機	双發爆撃機「マーチン」B二六型	記事
重量	全備重量	一七五瓩	一二、一瓩	
	自重	六七	八、三	
	燃料	八三	二、八	
	爆弾	二〇	一	
	兵装	五	一	
	發動機重量	二四	二、五	
	機体重量	四三	五、八	
性能	馬力	三〇、〇〇〇	三、七〇〇	
	速力	六八〇粁	五五七粁	
	航續距離	一六、〇〇〇粁	三、八〇〇粁	
爆弾搭載量	行動半径一、九〇〇粁	八〇瓩	一瓩	
	行動半径八、〇〇〇粁	二〇瓩	〇瓩	
同一爆撃效力ニ對スル諸要素比率	效力比	八〇	一	
	機数比	一	八〇	
	發動機数比	六	一〇四	
	機体製産費比	二一五万円	二、三二〇万円	
	機体製産材料比	六五瓩	六九六瓩	デユラルミン材ノミヲ計上ス
	工数比	二一五人	二、三二〇人	
	燃料量比	一九瓩	二二四瓩	
	操縦士数比	一〇	四〇〇	双發機ハ一機ニ付キ五人トス
	兵員比	三六人	九六〇人	双發機ハ一機ニ付キ一二人トス
航空隊戰力比較	機数	一二五	一〇、〇〇〇	
	飛行場数	二	五〇	
航空軍団戰力比較	機数	一、二五〇	一〇〇、〇〇〇	
	飛行場数	一三	五〇〇	
製産施設比較（航空軍団建設）	機体工場	五	五〇	軍位工場、面積七万坪、從業員三万人
	發動機工場	三	三四	軍位工場、機械数四千台、從業員二万人
	從業員数	二一〇、〇〇〇人	二、一八〇、〇〇〇人	

第三表

大型飛行機戰策ト中型飛行機戰策比較

項目	六發沼重爆機	四發五重爆機	記事
航空軍團戰力比較			
機員數	六發沼重爆機	四發五重爆機	記事
飛行場數	一四	五〇〇	
機体工場	五	四六	單位工場、面積七万坪、從業員 三万人
發動機工場	四	三四	單位工場、機械數四千台、從業員 二万人
從業員數	二三〇、〇〇〇人	二、〇六〇、〇〇〇人	
製産施設比較（航空軍團建設）			

第三表　大型飛行機戰策ト中型飛行機戰策比較

要項	六發超重爆機	四發重爆機「ボーイング」B一七型	記事
重量 全備重量	一七五瓩	二三瓩	
重量 自重	六七	一四	
重量 燃料	八三	五	
重量 爆彈	二〇	二	
重量 兵裝	五	二	
重量 發動機重量	二四	三	
重量 機体重量	四三	一一	
性能 馬力	三〇、〇〇〇	四、八〇〇	
性能 速力	六八〇粁	五二〇粁	
性能 航續距離	一六、〇〇〇粁	五、六〇〇粁	
爆彈搭載量 行動半径二、八〇〇粁	七二瓩	二瓩	
爆彈搭載量 行動半径八〇〇粁	二〇瓩	〇瓩	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 效力比	七二	二	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 機數比	一	三六	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 發動機數比	六	一四四	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 機体製産費比	二一五万円	一、九八〇万円	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 機体製産材料比	六五瓩	五八四瓩	デユラルミン材ノミヲ計上ス
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 工數比	二一五人	一、九八〇人	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 燃料量比	二八瓩	一八〇瓩	
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 操縱士數比	一〇	一八〇	一七型ハ一機ニ付五人トス
同一爆擊效力ニ對スル諸要素比率 兵員比	三六人	八六〇人	一七型ハ一機ニ付ニ四人トス
航空隊戰力比較 機數	一四〇	五、〇〇〇	
航空隊戰力比較 飛行場數	二	五〇	
航空軍團戰力比較 機數	一、四〇〇	五〇、〇〇〇	
航空軍團戰力比較 飛行場數	一四	五〇〇	
製産施設比較（航空軍團建設） 機体工場	五	四六	單位工場、面積七万坪、從業員三万人
製産施設比較（航空軍團建設） 發動機工場	四	三四	單位工場、機械數四千台、從業員二万人
製産施設比較（航空軍團建設） 從業員數	二三〇、〇〇〇人	二、〇六〇、〇〇〇人	

飛行場ハ五百ニ對シ、十三、機体工場ハ五十工場ニ對シ僅カ五工場ニテ充分デアル。

第三表ハ、乙飛行機ト ボーイング B十七空ノ要塞トヲ比較シタモノデアル。

乙飛行機ト、B十七トノ比率ハ、爆弾搭載量ガ、七十ニ瓲對ニ瓲デアルカラ、機數比ハ一對三十六トナリ、所要ヂユラルミン材料比ハ六十五瓲對五百八十四瓲トナリ、ガソリン消費量ハ二十八瓲對百八十瓲トナル。

斯ク、乙飛行機ハ、B十七ニ對シテモ、資材燃料ハ驚クベキ程僅少ニテ事足リルノデアル。

尚ホ、B十七型、五萬機ニ對シ、乙飛行機ハ千四百機ニテ足リ、飛行場ハ五百ニ對シ十四、機体工場ハ四十六工場ニ對シ僅カ五工場ニテ充分デアル。

以上ノ數字ハ、從來ノ一般通念ヲ根底ヨリ覆ヘシ、大馬力大型飛行機程、

僅少ノ生産力、僅少ノ資材ヲ以テ、大偉力ヲ發揮シ、小型飛行機程無益ニ厖大ナル製産機関ヲ要シテ、效力ハ少ナイ、ト云フ原則ヲ證明シテ餘リアルノデアル。

要スルニ、航空機ニ於テ勝敗ヲ決スル重大要素ハ、飛行機ノ數ニアラズシテ、爆彈積載可能ノ總量ニ存スルノデアル。此ノ点ガ、飛行機政策決定ノ基調ヲナス重大秘訣デアリマス。

此ノ根本眞理ヲ把握シ、大型飛行機政策ヲ以テスレバ、僅少ナル生産力ヲ以テ、厖大ナル生産力ヲ持ツ敵ヲ容易ニ打倒スルコトガ出來ル。

然レドモ、此ノ眞理ヲ誤認シ、小型飛行機政策ヲ採ル場合ニハ、敵ニ對シ、我ニ十倍ノ生産能力アリト雖勝算ハナイ。

現在、日本ト米國トノ飛行機製産施設ノ比率ハ、約一對四デアル、日本ガ超大型飛行機戰策ヲ以テセバ、現在ノ製産施設ノ半バヲ以テ、米國ヲ倒シテ

猶餘リアルノデアル。

然ルニ事實ハ全ク反對デアツテ、米國ハ大型飛行機戰策ヲ採リ、日本ハ最モ不利ノ小型飛行機戰策ヲ堅持シテ來タノデアル。

現在ノ苦戰ハ、當然ノ結果デアルト申サナケレバナリマセン。

獨逸ハ初メ航空勢力ノ優勢ヲ利シ、緒戰ニ於テ、目覺シキ戰勝ヲ博シタノデアルガ、其ノ後反樞軸側ガ、大型飛行機ノ製産ニカヲ注ギ、其ノ整備ヲ見ルニ至ルヤ、獨逸ノ戰勢急ニ挫ケ、各方面共甚ダ芳シカラザル情勢ヲ呈スルニ至ツタ事ハ公知ノ事實デアル。

ゲツペルス宣傳相ハ、近頃頻リニ國民ニ對シ、暫ラク隠忍セヨ、目下飛行機ノ大轉換ヲ實施中デアル、ソノ完成ノ曉ニハ、再ビ大攻勢ニ轉ジ、獨逸ノ勝利ハ必至デアルト聲明シテ居リマス。

是レ獨逸ガ、小型飛行機攻策ノ誤謬ニ禍セラレ、如何ニ悲慘ナル犠牲ニ苦

問シツヽアルカヲ、率直ニ告白セルモノデアリマス。

今ヤ日本ハ、米、英ノ大型飛行機ヲ以テスル、大規模反攻ニ直面シ、飛行機ノ劃期的大増産ニヨリ、新ラシキ決戦態勢ノ再建ニ迫ラレテ居ル。

此ノ重大轉期ニ於テ、再ビ恐ルベキ誤謬ヲ繰リ返スコトアラバ、禍ヲ千歳ニ残スモノデアツテ、罪萬死ニ値スルモノデアルト申サナケレバナリマセン。

第五、Z飛行機ニヨル必勝三戦策實施要領

Z飛行機ノ出現ニヨリ、前述ノ必勝三戦策ガ如何ニ現實ニ展開セラレルカ、其ノ具体的要領ハ次ノ如クナルノデアリマス。

一、防衛戦

Z飛行機ノ航續距離ハ、爆弾ヲ積載シテ、一萬八千粁以上デアリマスカラ、攻撃半径ハ裕ニ八千粁以上トナリマス、八千粁ノ攻撃半径ヲ以テ、各基地ヨリ攻撃圏ヲ畫キマスト、第五圖ニ示ス如クナリマス。

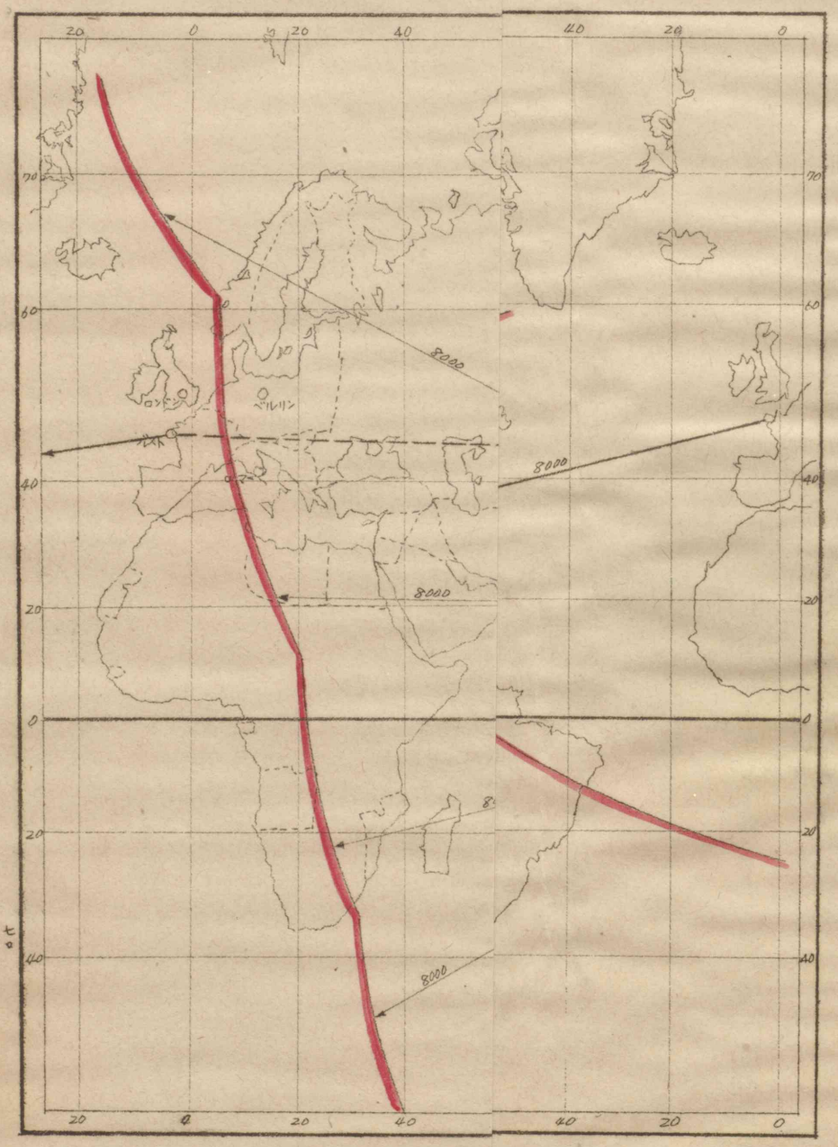
敵ノ六發空ノ要塞ノ攻撃半径ハ、七千粁デアリマスカラ、日本空襲可能ノ敵ノ飛行場ハ、青丸ニテ示ス如ク、全部我ガ攻撃圏内ニ包容セラレルコトトナリマス。

従ツテ、日本空襲可能ノ敵ノ飛行場ハ、Z飛行機ヲ以テ完全ニ爆破シ得ルコトガ出來マスカラ、敵ノ空ノ要塞ハ、日本本土ハ勿論、外郭防衛陣ニ對シ、空襲不可能ナリ、再ビ不可侵ノ新國防態勢ガ確立セラレルノデアリマス。

然シ乍ラ、多數ノ敵飛行場ノ中ニハ、時ニ未發見ノモノガ残存シ、其處カラ敵ノ空ノ要塞ガ、奇襲ニ出ル場合ガアルコトヲ考慮スル必要ガアル。

之ニ對シテドウスルカト云ヘバ、Z飛行機ニ二十粍機関砲九十六門ヲ装備セル、Z掃射機ヲ以テスレバ、確實ニ撃滅シ得ルノデアリマス。

敵ノ六發空ノ要塞ハ、最高時速五百五十粁デアルカラ、編隊ノ最高時速ハ五百粁



程度デアリマス。

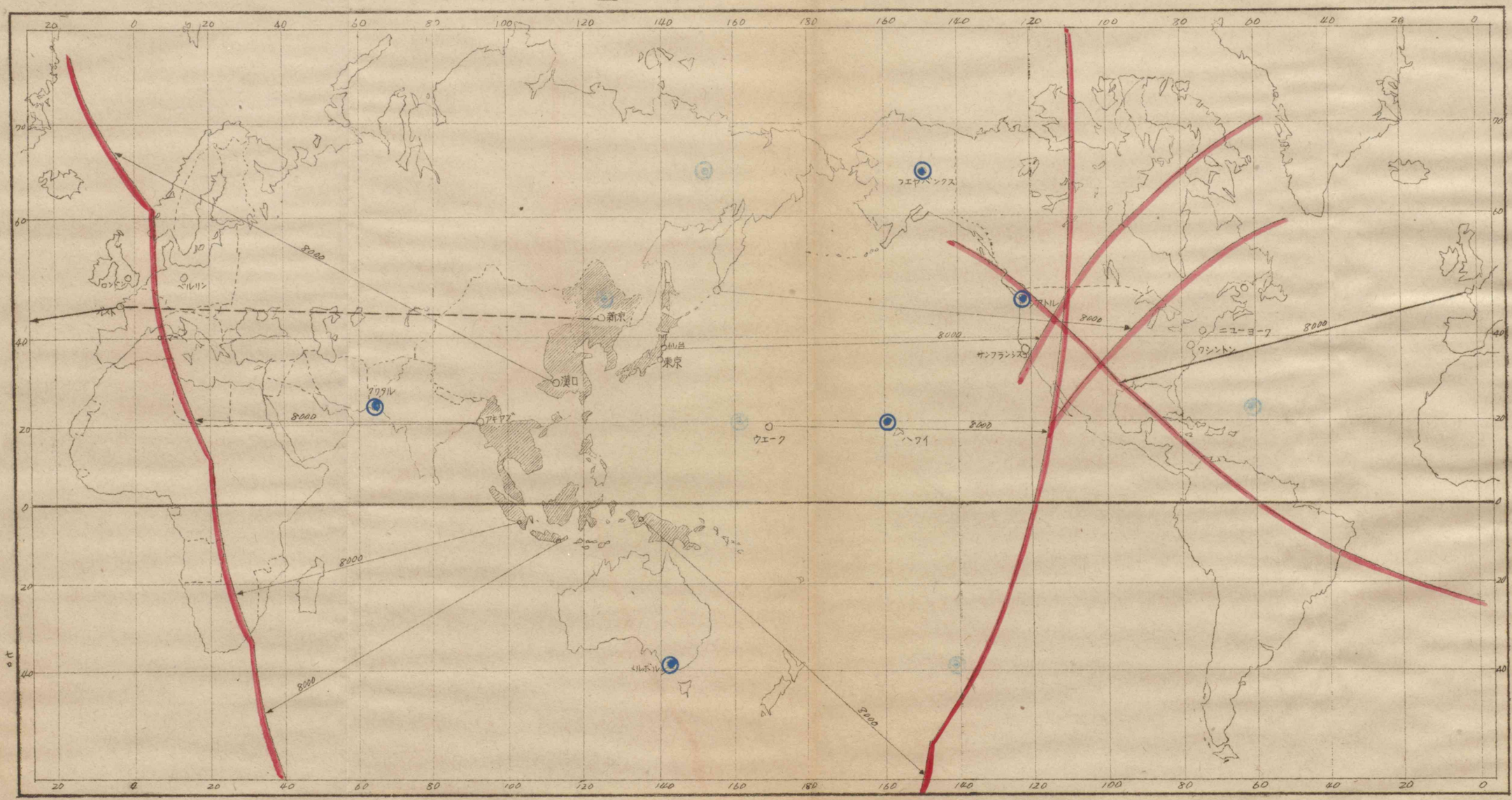
又飛行機ハ最高時速六百八十粁デアルカラ、其ノ時速差ハ百八十粁、分速差ハ三粁デアリマス。

之ノ時速差ヲ以テ、敵機ヲ追尾シツツ上方ヨリ掃射スル時ハ、二十粍機関砲ノ發射速度ハ、一分間ニ七百發デアリマスカラ、一門デハ、約四米ニ一發宛ノ間隔デ彈ガ落チルノデアリマス。

四米ニ一發デハ殆ド效力ハナイ、ソコデ、胴体内前後四米ノ長サニ、三百三十粍間隔ニテ、十二門ノ二十粍機関砲ヲ裝備シ、更ニ横ニ三百三十粍間隔ニ八例並ベルト、九十六門トナル、之ヲ同一銃架ニテ、一齊ニ照準發射シ得ル裝置トスル、ソシテ分速差三粁ニテ掃射スル時ハ、一分間ニ巾ニ米半、長サ三粁ノ面積ニ、三百三十粍間隔ノ彈網ヲ展張スルコトガ出來ル、之ノ彈網ニ補捉セラレタル飛行機ハ、二十粍機関砲彈ガ三百三十粍間隔ニ無數ニ命中スル、二十粍機関砲彈ノ、飛行機ニ對スル破壞威力ハ、直径三百五十粍トナ

第五圖

航空攻防戰狀況


ロンドン
ベルリン
新京
漢口
東京
山邑
アキアブ
ウエーク
ハワイ
サンフランシスコ
ニューヨーク
ワシントン
8000

ッテ居リマスカラ、機体ハ完全ニ破壊セラレテ撃墜ヲ免レナイ。

敵ノ空ノ要塞ノ全長ハ、三十米ソコ〳〵デアルカラ、三粁ノ彈網ニハ百機ヲ捕捉シ得ル勘定トナル、前後ニ相當ノ無駄彈ヲ見テモ、少クトモ五十機ハ完全ニ捕捉スルコトガ出來ルト定メテヨカラウト思ヒマス。

從ッテ、敵機五十機ノ編隊ニハ一機ノ掃射機、五百機ノ編隊ニハ、十機ノ掃射機ガアレバ、撃滅スルコトガ出來ルノデアリマス。

之ヲ實行スル場合ニハ、敵ノ空ノ要塞ノ來襲ヲ前進基地ニテ、ラヂオロケーター　ニテ豫知シ、途中ニ於テ邀撃スレバ、日本領域迄來ル前ニ、完全ニ撃滅スルコトハ容易デアル、又敵ガ引返シテ逃ゲテモ、敵ノ出發セシ基地迄追撃シ餘リアルノデアルカラ、全部撃墜シ得ルコトハ確實デアル。斯ク、發見シ得タル空ノ要塞ハ、必ズ捕捉殲滅シ得ルノデアリマス。

之デ以テ、空ノ要塞ニ對シテハ完全ニ國土ヲ防衛シ得テ、何等ノ不安ヲ感

ゼザルコトトナルノデアリマス。

次ハ、敵ノ航空母艦及ビ艦隊ニ對スル防衛戰法デアリマス。

是ニ對シテハ、乙飛行機ヲ改裝シタル、七、七粍機関銃四百挺ヲ裝備セル掃射機ト、一瓲爆彈二十個ヲ積載セル爆擊機、一瓲魚雷二十本ヲ裝置セル雷擊機ノ組合セヲ以テスレバ、容易ニ撃滅スルコトガ出來ルノデアリマス。

七、七粍掃射機トハ、乙飛行機ノ最高時速ハ六百八十粁デアルカラ、編隊ノ最高時速ハ六百粁ト見ルノガ至當デアル、時速六百粁ハ、分速十粁デアル、分速十粁ノ速サデ機関銃掃射ヲスル時ハ、七、七粍機銃ノ發射速度ハ一分間二千發デアルカラ、一ツノ機銃デハ、十米間隔ニ彈ガ當ルノデアル、十米ニ一發デハ殆ド效力ハナイ、ソコデ、胴体内ニ前後十米ノ長サニ、二百五十粍間隔ニ機銃ヲ裝備スルト四十挺並ブ、又之ヲ二百五十粍間隔ニ横ニ十列並ベルト四百挺トナル、之ヲ一ツノ銃架ニテ操作シ、一齊ニ照準發射シ得ル裝置トナシ、時速六百粁ニテ一齊掃射スル時ハ、一分間ニ、巾二米半、長サ十粁ノ面積ニ、二百五十粍間隔ノ彈網ヲ張ルコトガ出來ル、二百五十粍ト云ヘバ、人ノ巾ヨリ小サイ、從ツテ之ノ彈網ニ捕捉セラレタル人ハ、立ツテモ伏シテモ、必ズ一發以上、數發ノ彈丸ガ命中スルカラ全滅ヲ免レナイ。

ソコデ、之ノ掃射機十五機編隊ヲ以テスレバ、一分間ニ、巾四十五米、長サ十粁ノ面積ノ彈網ヲ張ルコトガ出來ル、現在最大ノ航空母艦及ビ戰艦ハ、巾三十米、長サ二百五十米以内デアルカラ、四十隻ヲ彈網内ニ捕捉スルコトガ出來ル譯デアル、前後ニ相當ノ無駄彈ヲ考ヘテモ、裕ニ二十隻ヲ完全ニ捕捉シ、上甲板ニ於ケル指揮官ヲ始メ全乘員ヲ撃滅シ、防空砲火ヲ完封シテ壯舞フ、然ル上ニ乙爆撃機ヲ以テ悠々襲撃ヲ行フコトトスル。

乙爆撃機ハ、一瓲爆彈二十個ヲ積載シ、機械的ニ五十米間隔ニ投下スル裝置ヲ附シ、二十五米間隔ノ九機編隊ヲ以テスレバ、巾二百米、長サ一千米ノ

面積ノ彈網ヲ張ルコトガ出來ル、故ニ、前後、左右、百米宛ニ百米ノ照準誤差ヲ考ヘニ入レテモ、完全ニ二隻ノ大型航空母艦又ハ戰艦ヲ捕捉スルコトガ出來ル。

彈網內ニ捕捉セラレタル敵艦ハ、必ズ一発爆彈五發乃至十發ノ命中ヲ免レナイ、五發命中ノ場合ニハ、命中彈ヨリモ更ニ有效ナル側彈五發ガ加ハル。

從來ノ戰績ニ徴スレバ、之レ丈一発爆彈ヲ被レバ擊沈ハ確實デアル。

故ニ、二十隻ノ大型艦隊ニ對シテハ、九十機編隊ノ乙爆擊機ヲ以テ、完全ニ擊滅シ得ルノデアリマス。

次ハ乙雷擊機デアリマス。乙爆擊機ヲ以テ完全ニ擊沈シ得ル筈デアリマスガ、空氣等ノ作用ニヨツテ、沈ムベキ態勢ニアリナガラ沈ミノ遲イ場合ガナイトモ限ラナイ。ソノ場合ニハ、一発魚雷二十本ヲ裝備セル雷擊機、一機一艦宛ニテ止メヲ刺ス、一艦ニ對シ、魚雷二十本ノ止メヲ刺セバ打チ漏ラスコ

トハ絶對ニアリ得ナイ。

斯ク、二十隻ノ敵艦隊ニ對シテハ、十五機ノ乙掃射機、九十機ノ乙爆擊機、二十機ノ乙雷擊機ニテ、確實ニ擊滅スルコトガ出來ル、敵艦隊ノ數ニ依ツテハ、之ノ割合ニテ機數ヲ繰リ出セバ、敵艦隊ヲ逃スコトハ絶對ニナイト思フノデアリマス。

ソコデ、敵ノ航空母艦及ビ艦隊ガ、日本領域ニ攻勢ヲ採ル場合ニハ、少クトモ海岸ヨリ二千粁以內ニ接近シナケレバナラナイ。

直チニ乙飛行機ヲ以テ捕捉スレバ、敵艦隊ガ乙飛行機ノ攻擊圏外ニ逃ゲ出ス迄ニハ、全速力ヲ以テシテモ數日ヲ要スル、乙飛行機ハ四十時間乃至六十時間、敵艦隊上空ニ張リ付イテ、次カラ次ト、掃射、爆擊、雷爆ヲ繰リ返シテ止メヲ刺スカラ、攻擊圏外迄逃レル迄ニハ、必ズ殲滅シ得ルコトハ確實デアル。

斯クヌ飛行機整備ノ暁ニハ、敵ノ航空母艦、艦隊ハ、又飛行機ノ攻撃圏内ニ存在スルコトハ絶對ニ出來ナイ、故ニ米國ガ如何ニ航空母艦ノ建造ニ狂奔スルトモ、全然無用ノ長物ト化シ、何等歯牙ニ掛ケル要ハナイ、況ヤ、輸送船團ノ如キハ、太平洋、大西洋、印度洋上ニ游弋スルコトハ、全然不可能トナルノデアリマス。

（七六）

斯クノ如ク、又飛行機ニヨリ、空ノ要塞、航空母艦、艦隊ノ日本攻撃ハ、全然不可能トナリ、又輸送船團ノ航行モ完封シ得ルコトヽナリマスカラ、日本本土ノ防衛ハ絶對安全トナリ、又ソロモン、ビルマ等ノ戦鬪モ、我ガ方一方的占勝裡ニ急速ニ解決シ、外郭諸領域ノ防衛ハ完璧トナリ、茲ニ再ビ不敗ノ新國防態勢ガ確立セラレルノデアリマス。

二、米國撃滅戦

米國ニ於ケル軍需生産施設ハ、大体ミシシッピー河ト太西洋岸トノ間ニ在リ、製鐵所、アルミ工場ハ、其ノ中間地点ニ集結シテ居ルノデアリマス。

日本カラ此ノ工業地帯迄行クニハ、相當ノ距離ガアリマスガ、佛國カラ行ケバ、ミシシッピー河迄六千五百粁、ニューヨーク、ワシントン迄、五千五百粁、重要ナル製鐵所々在地迄ハ、約六千粁ニ過ギナイノデアリマス。ソシテ佛國迄ハ日本カラ八千五百粁デアリマシテ、又飛行機ノ片道行程デアリマス。

故ニ佛國ニ前進基地ヲ設ケ、佛國基地カラ米國ノ製鐵所、アルミ工場ヲ爆撃スレバ、極メテ短時日ニ完全ニ爆破シ得ルコトハ容易デアリマス。

ソウナレバ、米國ノ世界ニ誇ル厖大ナル軍需生産ハ全面的ニ停止シ、飛行機モ、戦車モ、艦船モ、弾丸モ、製産不能ニ陥ルコトハ明デアリマス。

次ニ米本土ノ製油工場、メキシコ、ベネジュラ等ノ製油工場ヲ完全ニ爆破シテ仕舞ヘバ、飛行機モ、戦車モ、艦艇モ行動不能トナリ、戦力ヲ根底カラ

（七七）

掃滅スルコトガ出來ルノデアリマス。

次ニ、ニューヨーク、ワシントンヲ始メ、重要都市ヲ全部爆破纖滅シテ仕舞ヘバ、精神的、物的戰力ヲ擧ゲテ、掃滅シ得ルコト、ナリマスカラ、之レデ大体戰爭ハ終局ト見テ宜カラウト思フノデアリマス。

假リニ、米國ガ尚ホ餘喘ヲ保ツテ居タトシテモ、生ケル屍同様、全然無力ノ存在デアルカラ、米國本土攻略戰ハ、我ガ一方的策戰トナリ、極メテ容易且ツ簡單デアルト信ジマス。

無力化シタル米國本土攻略戰ニ関シテハ、作戰ノ大筋ハ、如何ニ簡易ニ片付ケルカト云フコトダケデアツテ、戰術トシテハ最早問題ノ外デアリ、如何様ニモ遣リ様ハアラウト思ハレマス。

乙飛行機ヲ以テスレバ至極簡單ニ行クノデアリマス、ソノ攻略案ヲ一例トシテ茲ニ申添ヘマス。

米國攻略軍編成

乙爆擊機　四千機
乙掃射機　二千機
乙輸送機　五千機
陸軍兵力　三百萬

米國陸軍兵力ハ總數一千二百萬ニ達シタル場合ニ於テモ、諸外地ニ派遣セラレ、内地ニ殘存スル勢力ハ約六百萬、太平洋側ニ當テ得ル兵力ハ三百萬ト推定セラレマス。

又、飛行場數ハ、千五百内外ニテ、太平洋側ニ存在スル飛行場ハ、七百位ト推定セラレマス。

ソコデ、乙爆擊機四十機、乙掃射機二十機ヲ一隊トスル百個編隊ヲ以テ、一回ニ敵飛行場百箇所宛、合計六百飛行場ヲ完全爆破シ、敵飛行機ノ蠢動ヲ

封ズル、次ニ残リノ百箇所ノ飛行場ヲ占領シ、我ガ作戰基地トシ攻略作戰ヲ推進スル。

飛行場占領方策ハ、武裝落下傘兵二百人宛ヲ載セタル又輸送機五十機ヲ一隊トシ、ソレニ護衛トシテ、又爆撃機四十機、又掃射機二十機ヲ附シタルモノ百個編隊ヲ以テ、一隊一飛行場宛、一擧ニ敵飛行場百箇所ヲ占領スル。

輸送機ハ更ニ、百萬宛ニ回、合計三百萬ノ陸軍兵力ヲ輸送シ、爾後ハ一機一回五十瓲、五千機ニテ一回二十五萬瓲宛ノ軍需品ヲ輸送スル、其ノ間、又爆撃機及又掃射機ハ敵反攻ノ防衛ニ任ズ。

次ハ地上戰鬪即チ敵地上部隊ノ掃滅戰デアリマス。

三百万ノ敵地上部隊ノ戰線ノ長サハ、大体六百粁位ト推定セラレマス。

四千機ノ又爆撃機ヲ以テスレバ、一日ニ巾二粁、長サ四百粁ノ面積ヲ十五米ノ深度ニテ吹キ飛バシテ仕舞フカラ、戰車、トーチカ、歩兵壕、砲兵陣地等ハ一擧ニ吹キ上ゲ殲滅スルコトガ出來ル。

二千機ノ又掃射機ハ、一日ニ巾百米、長サ四百粁ノ面積ヲ掃射シ、地上部隊ヲ掃滅シ得ルカラ、爆撃ニ依ツテ全滅ニ頻シ、アチコチニ残存スル小部隊ハ掃射機ニテ簡單ニ完全ニ掃除シテ仕舞フコトガ出來ル。

之ヲ數回繰リ返シテ行フコトニヨリ、敵地上部隊ハ大方片付イテ仕舞フ、其ノ後ヲ味方地上部隊ガ、平押シニ整理シテ行クト云フ戰法ヲ以テスレバ、極メテ短期間ニ米本土全域ヲ攻略シ、之ヲ抹殺シ得ルト確信致シマス。

以上ハ、相當ユトリヲ採ツタ例デアリマスカラ、實際ニハ、モツト小數ノ又飛行機、軍隊ニテ事足ルト思ハレマス。

以上ガ米國撃滅戰實施ノ要領デアリマス。

三、獨逸必勝戰

現狀ノ儘、無爲ニ獨逸ヲ放置スル時ハ、獨逸ハ漸次大規模爆撃ニヨリ、軍需生産機関ヲ爆破セラレテ戰力ヲ喪失シ、且ツ四周ヨリノ壓迫ニ堪ヘズ、遂

ニ必勝ノ信念ト、光明ヲ失ヒ、士氣沮喪シ、案外早ク崩壊スルニ至ルカモ知レナイ。ソレコソ、取リ返シノ付カヌ重大事件デアル。

故ニ、乙飛行機ノ急速整備ニ依リ、遅クモ昭和二十年後期ニハ、一舉ニ米、英、ソ、ヲ粉碎シ、完勝シ得ル確實性ヲ獨逸ニ了知セシメ、ソレ迄ハ何ガ何ンデモ、頑張ラセルコトガ必要デアル。

而シテ、米國ノ六發爆擊機ガ活動ヲ開始シ、獨逸ノ軍需生産機関ニ致命的打擊ヲ及ホサザル以前ニ於テ、乙飛行機ヲ急速ニ整備シ、日本及ビ獨逸ヲ基地トシテ、ソ聯ノ製鐵所、アルミ工場、製油工場ヲ、完全爆破スル、ソシテソ聯ノ戰力ヲ根底ヨリ掃滅シ、抗戰不能ニ陷ラシメ、全線ニ亘ツテ手ヲ擧ゲザルヲ得ザルニ至ラシメル。

斯クテ、東部戰線ハ電擊的ニ獨逸ノ完勝ヲ以テ終局セシメルコトガ出來ル。

次ハ、英國ニ對シ同樣ノ戰法ヲ以テ處スレバ、歐洲戰線ニ於テ獨逸ハ急速

ニ完勝シ、世界戰爭決勝ノ鍵ハ開カレルコトニナルノデアリマス。

以上ガ獨逸ヲ必勝セシムル戰法ノ大要デアリマス。

之ヲ要スルニ、世界戰爭ノ終局ハ眼前ニ迫ツテ來テ居ル、乙飛行機無クンバ、先ヅ獨逸ノ崩壞ニヨリ、早ケレバ明年、遅クモ昭和二十年ノ後期ニハ、樞軸側ノ慘敗ニ終ルノ危險ガ多分ニ有ル。

乙飛行機ノ急速整備成レバ、必勝三戰策ノ遂行ニ依ツテ、昭和二十年、遅クモ昭和二十一年ニハ、樞軸側ノ完勝トナリ、聖戰ノ目的ヲ完遂スルコトガ出來ルノデアル。

滅亡カ、必勝カ、乙飛行機ニ對スル斷行ノ決心ノ遅速ニ依ツテ決スルノデアル。

第六、乙飛行機製産計畫

一、最短期限ト最少機數

又飛行機製産計畫樹立ノ根底ヲナスモノハ、必要トスル最短期限ト最少機數ノ決定デアル。

前ニ詳述セル如ク、昭和二十年後期ニハ、米國ノ六發爆擊機ガ出現シ、天地ノ形相ハ一変シ、戰勢ハ極メテ危險ニ陷ル恐レガアル、從ツテ、何ガ何デモ、ソレ以前ニ又飛行機ヲ整備シ、敵ヲ先制シ、敵ノ企圖ヲ擊碎シ、必勝ノ實ヲ擧ゲナケレバナラナイ。

右ニ立脚シ、期限ト機數ハ最小限度次ノ如クナル。

必須期限　昭和二十年六月

最小機數　四百機

四百機ト云フノハ、一飛行場又ハ一源泉工場ヲ完全爆破スルニハ、一瓲爆彈八百個ヲ要スル、即チ四十機ノ編隊ヲ必要トスル、決行スル以上、少クモ

一回ニ十ヶ所位ノ飛行場又ハ源泉工場ヲ爆破シタイト云フ基礎ニ立ツタノデアツテ、最小限度デアル、尚ホ之レ以上アレバ一層有效デアツテ、多々益々辯ズルコトハ勿論デアリマス。

二、設計製産ニ對スル非常施策

又飛行機程ノ大型ニナルト、大体設計ニ一ヶ年、試作ニ一ヶ年、試驗飛行修正ニ六ヶ月ヲ必要トスル、ソレカラ多量製産ニ掛ツテ最初ノ一機ガ出來ル迄ニ一ヶ年、相當數製産スルニハ、ソレカラ六ヶ月ヲ要スル、故ニ普通手順ヲ以テスレバ、相當數ヲ整備スルニハ、設計ニ着手シテカラ四ヶ年ヲ要スルノデアル。

ソレデハ、總テハ去ツテ、後ノ祭デ間ニ合ハナイ。ソコデ昭和二十年六月迄ト云フ短期間ニ、四百機ヲ整備スルタメニハ、普通尋常ノ手段デハ出來ナイ、國家總力ヲ結集シテ、非常手段ヲ斷行シナケレバナラナイ。

故ニ、元則トシテ、設計ト試作ト多量製産トヲ一齊ニ併行シテ進行スル。

其ノ方策トシテハ、大型飛行機ノ設計製産ニ最モ経驗アル會社ノ技術陣ヲ基幹トナシ、ソレニ各有力會社カラ、設計技師、製産技師ヲ派遣シテ、協力設計ヲ行フ、各會社ノ派遣技師ハ、各自ノ會社ト常ニ密接ナル連絡ヲ採リ、設計ノ進行ニ從ヒ、所属工場ノ整備、機械、治具類ノ整備、材料ノ蒐集等多量製産ノ準備ヲ進メテ行ク。

飛行機ノ設計ガ、基礎設計カラ細部設計ニ入リ、試作ニ着手シ得ル程度ニ至ラバ：直チニ基幹會社ハ試作ヲ開始スルト同時ニ他ノ諸會社ハ多量製産ニ突入シ、ソレカラ十二ヶ月目ニハ必ズ最初ノ飛行機ヲ竣工スル段取リトナル。

斯ク、設計ト、試作ト、多量製産トガ併行シテ進行スルコトトナルカラ、多少ノ無理ノ起ルコトハ免レナイ、皇國興亡ノ瀬戸際デアッテ、時ガ遅クレテハ萬事ハ窮スル、故ニ飛行機製産ニ對スル、從來ノ完美ヲ追フ觀念ヲ一掃

シ、只々攻撃目的ヲ達シ得レバ足ルト云フ程度ニテ、アラユル無理ヲ忍ブノ拙速主義ニ徹底スル必要ガアルト思フノデアリマス。

三、製産施設ノ急速整備

昭和二十年六月迄ニ四百機ヲ整備スルタメニハ、七萬坪、三萬人程度ノ機体工場ガ十ヶ所、四萬坪二萬人程度ノ發動機工場ガ七ヶ所必要デアリマス。

現在作業中ノ飛行機工場ヲ、之ニ振リ向ケレバ別ニ工場建設ノ必要ハナイガ、ソロモン、ニューギニヤ、ビルマ等ノ反攻盛ナル現戰勢ニ處シテ、現ニ製産中ノ飛行機ヲ中止スルト云フコトハ、理論上ハ正シイノデアルガ、仲々實現性ハ乏シイト思ハレル。

故ニ、飛行機増産計畫ノタメ、現ニ新タニ建設中ニシテ工事半バニアル、多數ノ機体工場ヤ、發動機工場ノ中カラ、適當ノモノ十七ヶ所ヲ選ビ、建設資材ヲ特別ニ配給集結シテ、急速ニ完成スルコトニ邁進スル。

飛行機工場ハ、資材サヘアレバ半年以内ニ建設出來ルモノデアリ、資材トシテハ、鐵材總量三十萬瓲モアレバ充分デアル、決意サヘ定マレバ何デモナイ事デアリマス。

斯クシテ、整備セラレタル新工場ト、舊工場トヲ適當ニ按配シ、先ヅ十七ケ所ダケヲ乙飛行機ノ機体、發動機ノ製産ニ充當スレバ、豫定ノ製産ヲ達成スルコトガ出來ルノデアリマス。

四、乙飛行機、發動機製産實行計畫

(イ) 乙飛行機製産計畫

第四表ハ乙飛行機ノ設計、試作並ニ各會社ノ製産責任數ヲ月割ニテ示スモノデアリマス。

表ニ示ス如ク、昭和二十年六月迄ニハ相當數整備シ、月々、表示ノ如キ編隊爆撃ヲ決行スルコトガ出來ル、一回ノ爆撃ニ四十時間以上ヲ要ス

第四表

乙飛行機製産計畫

| 年月 | 機体製産 | | |

第四表

乙 飛行機製産計畫

年月				機体 製産 設計	試作	中島 第一	中島 第二	中島 第三	三菱 第一	三菱 第二	川崎 第一	川崎 第二	立川其他 第一	立川其他 第二	立川其他 第三	立川其他 第四	合計	累計	爆撃 訓練	爆撃編隊機数	同一效力ヲ発スル攻発機数	基本工場爆滅数
一八、八	基礎設計			〃	〃												〇	〇				
九	〃	準備		〃	〃												〇	〇				
一〇	〃	製作準備		〃	〃												〇	〇				
一一	細部設計	〃		〃	〃												〇	〇				
一二	〃	〃		〃	〃												〇	〇				
一九、一	〃	〃		〃	〃												〇	〇				
二	〃	試作着手		〃	〃												〇	〇				
三	〃	〃	製作着手	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
四	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
五	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
六	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
七	完了	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
八	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
九	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
一〇	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
一一	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
一二	〃	〃	仝上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
二〇、一	完成、三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇				
二	試飛行	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三五	三五				
三	〃	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五三	八八				
四	修正	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七四	一六二	訓練			
五	〃	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九五	二五七	〃			
六	完了	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一五	三七二	〃	二〇〇	四、〇〇〇	三五
七	〃	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三五	五〇七	〃	三〇〇	六、〇〇〇	四九
八	〃	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五五	六六二	〃	四〇〇	八、〇〇〇	七〇
九	〃	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七五	八三七	〃	五〇〇	一〇、〇〇〇	八四
一〇	〃	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九五	一〇三二	〃	六〇〇	一二、〇〇〇	一〇五
一一	〃	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一五	一、二四七	〃	七〇〇	一四、〇〇〇	一一九
一二		二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三五	一、四八二	〃	八〇〇	一八、〇〇〇	一四〇

ルカラ、手入ノ時間ヲ相當ニ見テ、裕ニ一ヶ月[illegible]七回ノ爆撃行ヲナシ得ル、故ニ主要源泉工場爆滅數ハ、最下段ニ示ス數ニ達スルノデアリマス。

大体、製鐵所ハ米國ガ五十以内、ソ聯ガ三十以内、アルミ工場ハ米國ガ三十以内、ソ聯ガ二十以内、製油工場ハ米國ガ三十以内、ソ聯ガ二十以内、合計百八十以内ト推定セラレマスカラ、遅クモ九月中ニハ其ノ全部ヲ徹底的ニ爆破シ、戰力ヲ根底カラ掃滅シ、必勝ノ鍵ヲ開キ得ルニ至ルト思フノデアリマス。

(ロ) 乙發動機製産計畫

第五表ハ乙發動機ノ設計、試作並ニ各會社ノ製産責任數ヲ示スモノデアリマス、發動機ノ豫備數ハ、乙飛行機一機ニ付二台、即チ三割三分ノ豫備數ヲ算定シテアリマス。

五、獨逸トノ協力作業

前ニモ述ベマシタ通リ、獨逸ノ崩壞ヲ防止シ、必勝ニ導クタメニハ、乙戰策ノ遂行ニ関シ、獨逸ト密接ノ連絡協力ヲナシ、必勝ノ信念ヲ培ヒ、良ク堅忍敢闘ヲ續ケシムルト共ニ、前進飛行場ノ建設、所要爆彈ノ製産、所要ガソリン、ノ準備等ハ一切獨逸ニテ分擔シ、且ツ乙飛行機ノ設計圖ヲ送付シ、獨逸飛行機工場ニ於テモ、ソレガ製産ニ當ラシムルコトガ必要デアル。

斯クシテ、數量ニ於テ更ニ有力トナリ、敵撃滅ノ神機ヲ一層確實ニ、急速ニ把握スルコトガ出來ルト思フノデアリマス。

之ガ獨逸トノ協力作業ノ大綱デアリマス。

以上ハ乙飛行機製産ニ関スル技術的方策ノ概要デアリマシテ、尚ホ此ノ外ニ必要ナル事項ハ幾ラモ有ルダラウト思ハレマス。

特ニ重大ナル要点ハ、着手時期デアリマス、第四表ニ示ス如ク、技術的ニ見テ、最早時期ニ殆ド餘裕ガ無イ、遲クモ十月中ニ断行ノ方針ガ決定セラレ、

第五表　乙飛行機用發動機製産計畫

年月	發動機製産											
	發	試	試作要数	製	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
七			一、〇八〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一、三三〇	一、五四〇	一、七五〇
八			一、二〇〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
九			一、四〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
一〇			一、五六〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
一一			一、七二〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
一二			一、八八〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

第五表　乙飛行機用發動機製産計畫

年月			發動機製産												
	設計	試作	所要數	中島 第一	中島 第二	三菱 第一	三菱 第二	川崎	愛飛	滿航	合計	累計
一八、八	基礎設計	準備		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
九	細部設計	〃		準備	仝上	仝上	仝上	仝上	仝上	仝上	〇	〇
一〇	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一一	〃	試作着手		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一二	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一九、一	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
二	完	〃		製産着手	仝上	仝上	仝上	仝上	仝上	仝上	〇	〇
三		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
四		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
五		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
六		完成		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三	三
七		試験		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
八		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
九		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一〇		修正		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一一		〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
一二		試験		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〇	〇
二〇、一		完了	二四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	七〇	七三
二			二五六	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二一〇	二八三
三			四二四	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	四一〇	七〇三
四			五九二	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	六三〇	一、三三三
五			七六〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	九一〇	二、二四三
六			九二〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一、一二〇	三、三六三
七			一、〇八〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一、三三〇	四、六九三
八			一、二〇〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	一、五四〇	六、二三〇
九			一、四〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	一、七五〇	七、九八三
一〇			一、五六〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	一、九六〇	九、九四三
一一			一、七二〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二、〇〇〇	一二、〇四三
一二			一、八八〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二、一〇〇	一四、一四三

製産命令ガ發セラレナケレバ、時間的ニ萬事ハ去リ、皇國ノ運命ハ極メテ憂慮スベキ情勢ニ突入スルコトナキヲ保シ難イノデアリマス。

然ルニ、時恰モ、ソロモン、ニューギニヤノ苦戰、ビルマ方面ノ大反攻ニ直面ス、現地部隊ノ現用飛行機ニ對スル要求ハ、火ノ出ル様ニ激越ナルモノガアルコトハ推察ニ難クナイ、自然其ノ強烈ナル刺戟ニ眩惑シ、戰鬪機ヲ始メ、現用飛行機ノ急速増産ニ全力ヲ傾倒セント焦慮スルニ至ルコトモ、又一應不可避ノ勢デアラウト想像セラレルノデアリマス。

茲ガ皇國ノ運命ヲ決スル重大ナル判断ノ岐路デアル。

一途ニ外郭防衛線ノ確保ヲ以テ、戰爭ノ主目的トナシ、一切ヲ擧ゲテ現用飛行機ノ製産ニ集結スルノ策ハ、前ニ畫々申シ述ベタ通リ、遂ニ凡俗低劣ナル構想水準ニ墮シ、危險ナル舊式戰法ノ弊ニ陷ルモノデアツテ、断ジテ皇國保全ニ任ズベキ忠誠ノ道デハナイ。

外郭防衛線ヲ確保スルコトノ必要デアルコトハ申ス迄モナイコトデアル、

然シ彼我ノ航空勢力ノ均衡ヲ基礎トシ、念願シテノ外郭防衛戦ヲ考ヘルナラバ、餘リニモ無謀極マルモノデアルト申サナケレバナラナイ。前述セル如ク、日本ノ廣大ナル外郭陣ニ對シ、守備態勢ヲ以テシテハ、我ガ飛行機製産能力ニテハ之ヲ如何ニ急速ニ増強スルト雖、現用飛行機ヲ襲用スル限リニ於テハ、航空勢力ノ劣勢ハ避ケ難イ現實デアル。

此ノ頽勢ヲ打開スルニハ現用飛行機戦策ヲ放擲シテ乙飛行機戦策ニ轉換スル以外ニ方策ハ絶對ニ無イ。

故ニ外郭防衛戦策ハ、乙飛行機ノ出現迄ハ、航空勢力ノ劣勢ヲ基調トシテ確立セラレナケレバナラナイ。

ソレハ、他ニアラズ、敢然トシテ米洲ニ攻勢ニ出デ敵飛行機ヲ米領域守備ノタメニ針付ケニスルカ、若シクハ、堅固ナル要塞ヲ適當ノ線ニ急設シ、乙

機出現迄、航空勢力ノ劣勢ヲ忍ビテ、堅守スル方略ニ出ズベキデアル。

更ニ重大ナル事ハ、如何程現用小型飛行機ヲ増産シ、外郭防衛線ヲ堅守シタ所デ、前述セル如ク、敵ノ大發爆撃機ノ日本本土攻撃ニヨル皇國ノ重大危機ハ別途ニ緊迫シテ來ルノデアル、而シテ現用飛行機ヲ以テシテハ、之ニ對スル防衛ハ絶對不可能デアルコトハ、ベルリン空襲ノ戦績ニ依ツテ實證セラレタ事デアル。又現用飛行機ヲ如何ニ増産シテモ、歐洲戦局ニ於ケル獨逸ノ敗戦ヨリ來ル、皇國ノ危機打開ニ對シテハ、全然寸效ダニ無キ重大實相ヲ、極メテ深重ニ考慮シナケレバナラナイ。

要スルニ、目前ノ局部的戦勢ニ把ハレズ、高處ヨリ達觀シ、現用小型飛行機ノ製産ハ、アル程度ニ止メテ、大轉換ヲナシ、所然乙飛行機ノ製産ニ國力ヲ集中シ、一擧ニ敵ヲ撃滅シ、速カニ完勝スル戦策ヲ敢行スルコトガ、指導階級ノ最高至上ノ責務デアルト信ズルノデアリマス。

之ヲ以テ、私ノ申上グルコトヲ終リマス。

結語

以上ヲ要スルニ、最近兵器ノ異狀ナル進歩変遷ニヨリ、從來ノ戰策ハ、實質上、根本的ニ大変革ヲ來タシ、タメニ、國防上重大ナル危機ヲ胚胎スルニ至ツタノデアリマス、殊ニ、米國ニ於ケル六發爆擊機ノ出現ハ、我ガ外郭防衛陣ノ戰勢如何ニ係ラズ、敵ハ、直接樞軸側ノ戰力源ヲ爆破シ、抗戰能力ヲ擊碎シ、一擧ニ勝ヲ制スルノ企圖ニ出ズルコトハ決定的デアリマシテ、昭和二十年ノ後期ニハ、極メテ悲慘ナル運命ニ逢着スルノ憂ガ多分ニ存スルノデアリマス。

此ノ危機ヲ打開スルニハ、現用小型飛行機ヲ如何ニ増産シ、現在ノ陸上勢力、海上勢力ヲ如何ニ増强シテモ、全然不可能デアル。

即チ、現在ノ軍備、現在ノ戰策ヲ踏襲スル限リニ於テハ皇國保全ハ難事デアル。此ノ重大危機ヲ脱脚シ、必勝ヲ期スルタメニハ、戰策変革ノ實相ニ則

シテ、直チニ必勝戰策ヲ構想シ、其ノ戰策遂行ニ必要ナル新兵器ノ整備ニ國家總力ヲ集結シ、以テ一擧ニ敵ヲ擊滅シ、急速ニ完勝ノ實ヲ擧グベキデアル。

要ハ、敵ノ六發爆擊機ヨリモ、更ニ大ナル攻擊半径ヲ持チ、多量爆彈ヲ積載シ得ル、雄大ナル乙飛行機ヲ急速整備シ、日本空襲可能ノ敵飛行基地ヲ完全爆破シ、敵機ノ日本攻擊ヲ不能ナラシムルト共ニ、敵本土ニ於ケル戰力源ヲ爆碎シ、ソノ抗戰能力ヲ掃滅シ、急速ニ米國ヲ擊滅シ、且ツ獨逸ヲシテ全勝ニ導キ、樞軸側ノ完勝ヲ以テ世界戰爭ヲ終局シ、以テ聖戰ノ目的ヲ完遂スベキデアルト信ズルノデアリマス。

而シテ、最モ重要ナル一点ハ、急速斷行デアル、乙飛行機ノ整備ト、米國ニ於ケル六發爆擊機ノ整備ト、何レガ早イカニ依ツテ、國家ノ運命ハ決スルノデアル。

米國ノ六發爆擊機ノ設計ハ現ニ進行中デアル。

乙飛行機ノ決定一日ノ遅延ガ、國家ノ運命ニ重大ナル結果ヲ招來スルコトハ、言議ノ餘地ヲ存シナイ所デアリマス。

何卒、御勇斷ノ程ヲ希フテ止マザル次第デアリマス。

—終—

群馬県立図書館
0713152-7